ライオン誌10月号 2004年（平成16年）9月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可毎月1回20日発行第47巻第4号

THE Lion

10
第47巻
第4号

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

October 2004

THEME 青少年
日本の教育現場におけるライオンズ-クエスト・プログラムの可能性を探る

ROAR 337複合地区
ヘッドライン：熊本龍峰／ふるさと探訪：福岡県甘木

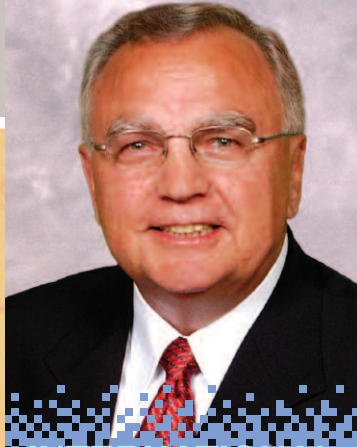
We Serve

CONTENTS

表紙メモ

日本の風景
熊本県・阿蘇

写真：編集部

デザイン：内田誠治

INTERNATIONAL PRESIDENT'S MESSAGE

国際会長メッセージ

2004-05年度国際会長
クレメント・F・クジアク
Clement F. Kusiak

Share Success THROUGH SERVICE

奉仕を通して成功を分かち合おう

指導力育成を通して成功を分かち合おう

Share Success Through Leadership

指導的な立場にある会員の能力は、ライオンズクラブ国際協会の成功に全面的な影響を及ぼします。クラブと地区の基礎を強化するためには、何よりも質の高い指導力が不可欠です。指導力の育成は、地域社会と恵まれない人々の要請にこたえて、将来を見据えた幅広いプログラムを立案することにつながります。会員は指導者の構想と活力に導かれ、奉仕活動の成功を効果的に分かち合うことが出来るでしょう。このような理由から、国際協会では指導力育成のさまざまな機会を提供しています。

ライオンズ・リーダーシップ研究会プログラムは、現在と将来の指導者を育成する方法として高い評価を受けています。この研究会では、参加者のニーズに合わせたカリキュラムを提供することにより、指導者に求められる知識と技能を養います。例えば、芽生えるライオンズ・リーダーシップ研究会では、クラブ委員会で成果を収めた会員歴八年以内の会員に、将来のクラブ会長としての十分な指導力を身に付けさせます。また、クラブ会長の任期を終えながらも、まだ副地区ガバナーに就任したことのない会員には、上位ライオンズ・リーダーシップ研究会への参加資格が与えられます。この研究会は、ゾーン、リジョン、地区のレベルで指導力を発揮することが出来るよう、そのために必要な技能の育成を目的としています。

現在のクラブ会長と地区ガバナーの職にある皆さんにお願いします。リーダーシップ研究会に参加するよう、積極的に皆さんの周りにいる会員に呼び掛けてください。ライオンズクラブ国際協会の将来は、この研究会によって決定されると言っても過言ではありません。なぜなら、ボランティア奉仕の世界的な指導者としてのライオンズの立場は、これらセミナーの参加者が身に付けた指導力によって、ますます強化されることになるからです。

複合地区MERL委員長セミナーも、指導力を高める重要な機会です。このセミナーでは、会員増強・エクステンション・リテンション・指導力育成の各委員長に求められる技能を養います。更に、地域ライオンズ・リーダーシップ研究会と複合地区指導力育成補助金プログラムは、地域や複合地区のレベルで指導的な

役割を担う会員が、確実に成果を達成出来るよう支援しています。

これらのプログラムでは、参加者が意見や課題、それまでに達成した成果を共有しつつ、互いに何かを学び合うことが出来るよう、最新の訓練技術が用いられています。彼らは活発な対話を通して積極性を養い、国際協会のプログラムの概要について理解を深めることになるはずです。また、これらの研究会やセミナーは、開催地の文化に適した形で提供されます。したがって、参加者は各自の意見と経験を最も効果的に分かち合い、今後の数年間、数十年間の成功に役立てることが出来るでしょう。

国際協会の公式ウェブサイトにあるライオンズ学習センターも、知識を習得する重要な手段として、指導力の育成を支援しています。最新の技術を駆使して常に進化を続ける学習センターは、あらゆる会員にとって計り知れない価値を持ちます。そこには国際協会に関する知識が網羅され、会員が指導力を養う絶好の機会が提供されています。学習センターで培われた知識を生かして仲間の会員を指導すれば、クラブや地区では一層の成果が達成されることになるはずです。

デトロイト国際大会閉会式の壇上に立つクジアク国際会長ファミリー

最も優れた指導者とは、どのような人物を指すのでしょうか。それは、さまざまな可能性を見いだす豊かな想像力と、現実的な感覚・判断力を兼ね備え、目標の達成に向けて最善の方法を選択出来る人物です。彼らはまた、最大限の成果を達成するために、熱意と意欲をもって粘り強く計画を遂行する人々でもあるはずです。更に、学習に学習を重ね、常に自らの向上を目指すことも、優れた指導者として不可欠な姿勢であると言えるでしょう。

ライオンズクラブ国際協会の指導力育成プログラムは、会員の知識を高め、目的の達成に向けた熱意と意欲を養います。クラブ、地区、複合地区の現在と将来の指導者は、これらのプログラムを通して必要な技能を身に付けることが出来るでしょう。彼らの指導のもとに、自らの意見、価値観、能力を分かち合おうではありませんか。地域社会と世界全体に奉仕するライオンズの活動には、その時更なる成功が約束されることになるはずです。

LIONS - QUEST PROGRAM

日本の教育現場における ライオンズ-クエスト・プログラムの可能性を探る

330-C地区で、ライオンズ・クエスト・プログラムのパイロット事業が始まって四年が経つ。パイロット校の埼玉県川口市立芝東中学校における活動やその成果などについては、これまで本誌でも何度か紹介してきた。子どもたちの自尊心を育む上で、明らかな効果が認められるライオンズ・クエスト・プログラム。ならば、今以上に日本の教育現場に広がってしかるべきであろう。そのヒントを探るため、芝東中学校の並木茂夫前校長に話を伺った。

プログラム導入を振り返って

――社会生活をうまく営むための力「ライフスキル」との出合いをお聞かせください。

「もともと喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に携わっていた関係で、日本のライフスキル教育の第一人者、神戸大学の川畑徹朗教授を中心とする教授陣と接点がありました。私自身、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育には、ライフスキルが有効だと思っていました。そんな折、川畑教授から、ライフスキルの日本への導入プロジェクトへの誘いがありました。今から七年ほど前の話です」

――教育現場にライフスキルを導入するに当たり、どういう点で腐心されましたか。

「教員にライフスキルを理解させるのにとにかく時間が掛かりました。その効果を説明するデータがありませんでしたし、説明するのに非常に手間取りました。川畑教授にお越し頂き、研修会を開くことで教員に理解を深めてもらいました」

――教材としてライオンズ・クエスト・プログラムが選ばれますが、教員の反応はいかがでしたか。

「土曜日の午後、月一～二回ほどライフスキルを研究されている大学の先生方に学校へ来て頂き、検討会を開きました。教員たちにとって最も良かった点は、プログラムの中でおかしいと思った部分をすぐにその場で質問出来たこと。理解が断然早くなりました。また、大学教授にかかわって頂いたことで、教員たちのモチベーションも上がったようです」

――この時点では、ライオンズ・クエスト・プログラムの教材には日本語版がなかったわけですが、並木先生は教材開発のワーキング・グループにも携わっておられましたね。

「英語版のプログラムは、翻訳すれ

ばそのまま使えるという内容ではありませんでした。いちばんの大きな問題は、翻訳以前の、日米の根本的な教育環境の違いに端を発するものでした。例えばライオンズ・クエスト・プログラムには、ボランティア活動で子どもが主体的に寄付を集めるようなカリキュラムも含まれていますが、これをそのまま訳して導入したところで、日本の教育システムにはまず馴染みません。ただ単に日本語に置き換えるのではなく、日本の教育現場とかけ離れた内容については、何度も修正を加えました」

――試行錯誤を重ねながら教材を日本的に修正をし、次はいよいよ実際の教育現場への導入となりますが。

「パイロット校をどうするか、それも大きな問題でした。というのも、翻訳した日本語版プログラムは確かに日本の教育現場に合うように修正が加えられてはいますが、まだ一度も授業で使用された実績がありません。プログラムとしてより完成度を高めるために、三年計画で、実際の授業で使いながら検証していくことになりました」

――ご自身が当時校長を務めていらした学校が、プログラム実施のパイロット校に認定されます。どのようなお気持ちでしたか。

「正直、二つの気持ちがありました。一つは、本当に大丈夫なのだろうかという不安、もう一つは、新しい教育の試みだからぜひやってみたいという気持ちです。ですが、迷う以前に、ライオンズ・クエスト・プログラムを理解する教育関係者の中で、プログラムの導入を受け入れられる立場にあるのは、その時点では私しかいなかったのです。これはもう気を引き締めて取り組まなければと覚悟を決めました」

――二〇〇一年、満を持して芝東中学校にライオンズ・クエスト・プログラムが導入されます。

「着任したばかりの学校でしたが、当時は生徒が相当荒れていましてね、一刻も早く、生徒と先生の間に信頼関係を取り戻さなければと思っていました。そのためにはライオンズ・クエスト・プログラムが間違いなく有効だと確信していました」

並木茂夫（なみき　しげお）
埼玉県川口市立十二月田中学校校長。1983年、文部省の薬物乱用防止指導委員として我が国初の「喫煙、飲酒、薬物乱用防止の指導手引き書」作成にかかわり、以後、各種薬物乱用防止教育に取り組む。ライオンズ‐クエスト・プログラムの日本導入に当たっては教材開発の責任者を務めた。芝東中学校へのプログラム導入時の校長で、パイロット事業実施に尽力された。

効果は、じわじわ現れ始める

――芝東中学校はライオンズ・クエスト・プログラムの導入に成功されました。成功のポイントとは。

「四つあります。第一に、同じ年度に総合的学習の時間という新しい授業枠が創設されたことでしょう。芝東中では、一年生の全学級でこの時間を利用して、ライオンズ・クエストを取り入れました。第二のポイントは、二年生、三年生ではなく、一年生から導入出来たこと。翌年以降も学年単位で導入出来たことが良かった点でしょう」

――あとの二つのポイントは……。

「三つめは、プログラムの普及及び版権管理を担当する青少年育成支援フォーラム（ＪＩＹＤ）により、一年生のすべての授業風景が、ビデオで残された点。百聞は一見に如かず。次の年、初めてライオンズ・クエスト・プログラムに取り組むことになった教員たちは、このビデオを見ることが出来たため、授業内容を理解するのが早かった。そして最後は何と言っても、初期段階でプログラム開発者と教員の間で、話し合いの場を設けることが出来たことです。これは非常に大きな一歩でした。ここで教員たちにそっぽを向かれていたら、今はないかもしれません」

――そんな予兆もあったのですか。

「ええ、最初は皆、プログラムの効果に対しては半信半疑だったようです。導入した時点でもまだ『本当に効果があるのか』という声がありましたから。それに、すぐに劇的な変化が子どもたちに現れると思っていた教員が多かった。プログラムに即効性を求めていたのでしょう。ですが、授業を進めていくうちに、そういうものではないと気付いていったようですね」

――先生たちがこのプログラムに信頼を寄せるようになるのはいつごろ

からですか。

「二〜三回の授業でいくつかのプログラムを行った後、生徒たちの行動にほんの少し変化が現れ始めました。拒否反応を示すだろうと思われた他己紹介といった紹介プログラムや参加型のプログラムを、生徒たちは意外にも躊躇することなく受け入れました。むしろ教員の方が苦手にしていたほどです。こうした反応を見た何人かの教員から、初めて『この教材はおもしろい』という意見が出始めました。そして授業を始めてから一年経ったころ、生徒たちの口から『ライフスキルで解決しようよ』という言葉がよく出るようになりました。自主的に問題を解決しようと試みる姿が、校内のあちこちで見られるようになりました。教員たちの取り組む姿勢が劇的に変わったのはその時からです。もう、ライフスキルの効果に疑問を持つ教師はいなくなりました」

――プログラムを実践してみて、初めて分かったことはありますか。

「このプログラムは決して特効薬ではなく、長く続けることで初めて効果を現すものだと分かりました。また、先生にしてみても、慣れてしまえば問題はないのですが、子どもた

ライオンズ・クエスト導入に求められる役割

渡辺真一（埼玉県・春日部ライオンズクラブ）
330複合地区ライオンズ・クエスト委員長／元地区ガバナー

ライオンズ・クエスト・プログラムが、日本の教育現場に登場してから既に四年。いまだにその内容を理解していないという声や、理解しているが、具体的にどのように参画してよいか、その手だてを知らないという声を聞く。早くからライオンズ・クエスト導入に取り組んでいた330複合地区の渡辺真一ライオンズ・クエスト委員長に、プログラム導入におけるライオンズの役割について話を伺った。

――一九九九・二〇〇〇年度、330複合地区をパイロット地区としてライオンズ・クエスト・プログラムが日本に導入され、330・C地区を中心に数々の実績を作ってきました。

「まず、ライオンズ・クエスト・プログラムの日本語版教材を完成させました。また、パイロット校で三年間にわたりプログラムを実施し、ライフスキル教育の第一人者である川畑徹朗神戸大学教授による客観的な評価を得て、効果を確かめることが出来ました。おかげさまで、文部科学省初等・中等教育局から、総合的な学習の時間に適したプログラムである、という推薦も頂いています」

――教師用のワークショップは、これまで何回開催され、何人の方が受講されていますか。

「ワークショップはこれまで十八回を開催し、二十八都道府県から三百七十五人の方が参加しています。二日間のセミナー受講者には修了証を差し上げますが、修了証受領者の中には、ライオンズ会員も十人以上います」

――数字をお聞きすると、既にかなり広がっているのですね。

「ここ最近でも331複合地区、335複合地区、335・C地区などで、プログラム導入の機運が高まっており、八月には関西初のワークショップが京都で開催されました。また大阪の藤井寺ライオンズクラブや金剛ライオンズクラブ、愛媛県・松山白鷺ライオンズクラブ、高知とさみずきライオンズクラブなど、クラブ単位でも活発な動きが見られます。特に高知とさみずきライオンズクラブでは、九月に大規模なライオンズ・クエスト・セミナーを実施して頂き、高知市の教育委員会関係者の方々も参加されています。しかし、まだライオンズ・クエスト・プログラムを知らないメンバーが多いのも事実です。更なる普及活動の必要性を感じています」

――具体的にどのような普及方法を考えておられますか。

「大前提として、会員自身がプログラムを知らなくてはいけません。そのためにはプログラムの内容を紹介するセミナーを出来るだけ多く開催していくことです。また、

ちに、主体的に学習に参加させ、先生がその支援に回る、ライフスキルのような授業のやり方を、自分の指導スタイルとしてのみ込むのに、多少時間が掛かることも分かりました。最初、私に苦情を言ってきた先生もいましたが、後に、ライフスキルのおかげで子どもたちが荒れずに済んだ、と言うようになりました」

青少年問題解決の切り札

――ライオンズ・クエストは、日本の教育に合わないと思っているライオンズ・メンバーもいるようです。

「アメリカが考えた教育システムだから日本の教育に合わないというのは大きな間違いです。例えば、アメリカの学校が抱えている青少年問題をご存じでしょうか。タバコ、酒・薬物、不慮の事故（交通事故）、性、ジャンクフードの五つと言われています。これらを解決するためにアメリカではライフスキルを使っています。ここに挙げた五つは、日本の青少年が抱える問題と何ら変わらないと指摘されています。確かに教育環境の上では、異なる部分もあるでしょう。しかし、先ほど申し上げた通り日本語版ライオンズ・クエスト地区ガバナーにも、十分に内容を理解して頂く必要があります。やはり地区ガバナー方針の一つとして、ライオンズ・クエスト・プログラムを取り上げて頂ければ、それだけ広がりやすくなります」

――ライオンズ・クエスト・プログラムをアクティビティに取り上げたいが、どうしていいのか分からないという声を耳にします。

「そこでお願いなのですが、ぜひ複合地区、準地区、単位クラブの各レベルでライオンズ・クエスト委員会を設置するか、担当委員会を決めて頂きたいと考えています。そして委員会を設置した後、委員長、副委員長には、少なくとも二～三年継続することをお願いします。ご存じの通り、ライオンズ・クエスト・プログラム導入は、どうしても長い時間を要するので、長期で対応出来る体制を整えてほしいと思います」

――全国展開を考えると、ワークショップの講師を更に増員する必要もあるのではないでしょうか。

「ワークショップの講師を養成するための上級講師がいるのですが、その資格はＬＣＩＦの規則でワークショップを二十回以上経験した講師と決められています。現在、ワークショップで指導する日本人講師は四人いるのですが、上級講師の資格を得るにはあと二年ほどかかります。ですから急な増員は難しいのですが、現在でも年間三十回程度ならワークショップを開催出来る体制は整っています。また、それだけの回数を開くことが出来れば、資格取得も早まります。いずれにしろ、導入活動が全国的に広まれば、それに伴って講師も増員しなければなりません」

――複合地区や準地区レベルの活動にはどんなことを期待しますか。

「行政への働き掛けです。自治体や教育委員会との協力を取り付けて頂きたいのです。先日、東京都庁にライオンズ・クエスト・プログラムの説明に行って参りましたが、非常に興味を持たれました。ただ、ライオンズクラブが主催で都が後援という形は行政上難しいということで、逆に都の主催でライオンズがサポートに回るなら可能性は十分あるとのことでした。もう一つはＬＣＩＦ交付金の申請です。ライオンズ・クエスト・プログラムは四大交付金の一つなので、承認されれば一地区での申請なら二万五千ドル、二地区以上合同の場合は十万ドルが交付されます」

――クラブ・レベルではどんな動きが求められるでしょうか。

「ワークショップ開催がベストですが、そこまでいかなくても、セミナーや説明会を開催して、会員と地域の教育関係者に理解を深めてもらうこと。また、教育委員会に働き掛けて、教育委員会の公式な研修プログラムに取り上げてもらうことも考えられます。会員の人脈を駆使して、学校や教師に働き掛け、ワークショップを受講するよう勧め、クラブでその参加費を出すのもいいでしょう」

――今後、学校へのプログラム導入を進めるに当たって、何かプランはありますか。

「現在、全校的に導入しようという学校が何校か名乗りを上げています。こちらから何らかのアプローチをしたわけではなく、ワークショップを受けた教師が学校で広めた結果です。今後の展望として、パイロット地区としての責任を果たすべく、各地区のご支援とご尽力により、八複合地区に少なくとも一校ずつのモデル校を作って頂きたいと考えています」

は、現在完全に日本の教育現場で作り直されたものとなっています」

——ライオンズ・クエスト・プログラムは全部を実施すると膨大な量になります。学年ごとの年間計画のもと、そのうちのある単元だけを選択するような使い方でも、その目的は達せられるのでしょうか。

「はい、問題ありません。例えば、芝東中では総合的学習の時間枠を利用してライオンズ・クエストの中からいくつかの単元を使用しましたが、プログラムを貫いているライフスキルは、他の授業はもちろんホームルームのような短い時間にも応用出来ます。実際、使っている教員はたくさんいます」

——ライフスキルを身に付けるには二日間のワークショップを受けなくてはなりませんが、一度受けただけで、実際にライフスキル教育を学校に導入出来るようになるのでしょうか。

「可能です。ただ、ワークショップはどちらかというと、ライフスキルとはどういうものなのかを理解して頂いた上で、授業の進め方のきっかけをつかむための場だと思います。ライフスキルを導入している学校には、何人かがワークショップに参加して、その人たちが核になって学校内に広げているという例もあるようです。しかし、よほどしっかりした動機付けがないとなかなか続かないようです」

——現在、プログラム導入校は何校かあるようですが、他校ではパイロット事業として導入した芝東中のように懇切丁寧な指導はありません。その点はいかがですか。

「確かに芝東中は、ライオンズ・クエスト・プログラムのパイロット校としてスタートしたという背景があります。川畑教授ら大学の先生方とのパートナーシップや、JIYDのサポートなどのおかげで、ここまで大規模な導入が成ったと言えます。芝東中のケースはむしろ特別ととらえるべきでしょう」

——では、プログラムの普及はどのような形で進めるべきだとお考えですか。

「まず、すそ野を広げるというのも一つの方法でしょう。何も学校全体で行うプログラムだけが、すべてではないはずです。ワークショップに参加者してそれを授業で活用出来る教員を増やし、底辺を広げることが最も現実的ではないでしょうか。そして、そのサポートをライオンズの皆さんにお願いしたいですね」

——例えば、どのようなサポートが有効でしょうか。

「例えば、川口なら川口市内のワークショップに掛かる資金を、ライオンズが組織的に支えられるようなシステム作りを考えてほしいと、以前からライオンズの方には提案しています。学校の先生に、金銭的負担をかけてワークショップへ行け、と言ってもなかなか難しい問題がある。もっと全国の多くの場所でワークショップが開かれるようになり、一人でも多くの教師がそれに参加して、日本の教育がライフスキルを通して変わっていけば、ほんとうに素晴らしいことだと思います」

——最後に、ライオンズ・クエストを広げていく上で、何かメッセージを頂けますか。

「このところ、日本中の学校で重大な事件がいくつも起こっています。自分や他人のことを大切に思えなかったり、人との関係がこじれても、うまく解決することが出来ない。こうしたことは、彼らにライフスキルがないがゆえ発生する問題にほかなりません。今こそ子どもたち本人が、自分で問題を解決出来る心理社会能力を身に付けることが大切です。そのための具体的な対処法としてはライオンズ・クエスト・プログラムによる、ライフスキル教育が最も効果的だと思います。全国のライオンズの皆さん、今こそライフスキルのすそ野を広げるべき時です」

構成／砂山幹博（ルポライター）

多くの教育関係者が詰めかけた芝東中学校での公開授業

国際理事だより

■国際理事
石橋　幹雄
（北海道・小樽グリーン）

国際理事会での出来事を身近な話題としてお伝えしたい

第八十七回デトロイト／ウィンザー国際大会で、〇四〜〇六年国際理事に選出されました。大役ではございますが、引き受けた以上、全力で務めさせて頂きます。国際理事会では、会則委員会に所属することとなりました。そこで早速、クレメント・F・クジアク会長から五項目の諮問がありましたのでご報告します。

一．選挙制度に関すること
二．ガバナー協議会議長に関して
三．ライオンズ倫理規範
四．紋章規定に関すること
五．各標準版会則と理事会方針書の見直し

会則委員会は六人で構成されていますが、英語・スペイン語・ポルトガル語と日本語が飛び交うおもしろい雰囲気。九月の中旬には委員長からレジュメを頂くことになっており、十月にシカゴで開催される理事会から本格的な論議に入ることになると思います。

国際理事会での私の席は、東洋・東南アジアの国際理事五人と一緒で、演台に向かって右側にあります。それぞれの理事の席には各国の国旗があり、大久保理事と私の席にはもちろん日の丸が立っています。

理事オリエンテーションでは、「なぜ会員増強が必要か」という議題で討論が行われました。全体会議から各会則地域に分かれての討論で、理事はそれぞれ意見を求められます。「ライオニズムを謳歌するため」「より良い後継者を育むため」「世界最大の奉仕団体を発展させ維持するため」「国際本部の経営戦略」など、ジョークも飛び出す雰囲気の中、いろいろな意見が出され、それらがまとめられて全体会議で報告されます。

会員増強の会則地域での討論では、ロール・プレイングで意見を言い合います。クジ引きで「チェアパーソン」「地区ガバナー」「国際理事」の役割を決め、それぞれの立場で意見を言います。例えば、チェアパーソンを引いた人は、「経済状況、ライオンズクラブの魅力減少と誇りの喪失で、会員増強がいかに難しいか」と言えば、地区ガバナーの役は、「国際会長の方針だ。何としても会員の増強はしなくてはならない」と意見を出す。焦点は、国際理事の役。各地区ガバナーにどう働いて頂くかが発言のポイントとなります。非常にアメリカ的なやり方ですが、討論としてはいたってまじめ。全体会議の休憩時間には、コーヒーを飲みながら理事同士の友愛を深めます。

朝食は朝七時。おいしくはありませんが、だれも文句は言いません。昼食も幹部職員と一緒。夕食はパーティーとなるので、会議場からバスで移動。バスの席はおおむね決まっていて、会長、前会長、副会長、二年理事、一年理事、アポインティーの順に前から座ります。私はいつもいちばん後ろです。

日曜日はお休みでしたので、私は大久保理事と一緒にシカゴのダウンタウンへ行きました。ずっと会議だったので、ようやくお土産を買うことが出来ました。街では握り寿しを食べながら、大久保理事に会則委員会の雰囲気を伝え、今後の予定を報告しました。

その夜のパーティーのテーマは「シカゴ・ギャング」。黒いシャツと黒眼鏡を身に付け、玩具のピストルを持って現れたアメリカの理事たちは、本物と見紛うばかりのギャングっぷりでした。私はワインを飲むだけで気後れし、次は芸当の一つでも覚えて来なさいと言われる始末でした。

日本の会員の皆さんに理事会をより近く感じて頂くことを目標に、このたよりを書かせて頂きます。

全地区ガバナーを招集し、会員増強セミナー開催

八月三十一日、東京・丸の内のパレスホテルで、クジアク国際会長の目標「会員純増五パーセント」達成に向けた会員増強セミナーが開催された。セミナーには全地区のガバナー、もしくは副地区ガバナーが出席。講師を務めたテーサップ・リー前国際会長は、昨年度、国際協会全体で久しぶりに会員純増（約八千三百人）を記録したが、日本は約三千九百人の減少であったとし、その対策として、前年度までのインパクト・プログラムの成果を踏まえ、新クラブ結成に狙いを絞った方が効果的であること、女性と若い人をターゲットにすべきであることなどを話した。今年度はインパクト・チームに代わり、国際理事会を中心に会員増強を図ることになり、リー前会長が、東洋・東南アジア地域の責任者に就任。日本は330～333複合地区を石橋幹雄国際理事、334～337複合地区を大久保彦国際理事が担当する。

日本はクラブ数、会員数とも世界第三位

二〇〇四年六月末の国際協会集計によると、会員数の多いライオンズ国トップ5はアメリカ四二万五、三〇七人（一万三、五八三クラブ）、インド一四万七、二二〇（五、二一九）、日本一二万五、九八九（三、四二二）、韓国七万六、八五三（一、八六三）、イタリア五万六〇六（一、二二五）。

四位の韓国は期首から四、五三〇人、六・三パーセント増加する大躍進を遂げている。二〇〇三‐〇四年度は世界全体では〇・六パーセントの会員純増があったが、日本は二・九パーセントの減少となった。

日本で最大のクラブは山梨県・南アルプス

ライオン誌日本語版事務所に提出された「会員並びにクラブ活動状況報告書六月分」を集計した結果、日本国内で会員数が最も多かったのは山梨県・南アルプス・ライオンズクラブの一六二人だった。以下十位までは、静岡県・浜松一五五、群馬県・高崎一四二、福岡県・田川一二六、福岡県・飯塚一二二、愛知県・岡崎南一一三、秋田県・大曲／大阪府・茨木一一二、岐阜南一一一、愛知県・江南一

〇九と続いている。会員数が百人を超えるクラブは全国で十五クラブあった。

日本の女性会員数は昨年度末で約六、九〇〇人

ライオン誌が六月分報告書を基に集計した日本の女性会員数は、全会員数の五・五パーセントで、昨年より〇・九ポイント増加した。この割合を国際協会集計の六月末会員数にあてはめると、昨年度末の女性会員数は全国で推定六、九〇七人となる。年度末会員数が約三、七〇〇人の減少となった中、テーサップ・リー前国際会長の女性に焦点を当てた会員増強プログラムを受けて、女性会員は約一、〇〇〇人の増加となった。地区別に見ると、335・B地区が一〇パーセントと大台に乗った。次いで335・A、337・A地区が共に八・九パーセント。女性の伸び率が高かったのは335・C地区で三・六ポイント増。次いで332・C地区が三・五ポイント増、337・C地区が二・二ポイント増だった。また、男女混合クラブの割合は全国平均四五・八パーセントで、昨年より三・五ポイント増。地区別では337・C地区が七六・三パーセントで最も多く、332・E、334・E地区が共に六九・二パーセントと続く。地区別集計結果は、公式ウェブサイト内「日本のライオンズクラブ」（トップページのバナーをクリック）の資料ページに掲載。

会議録 8月

主な議題だけをまとめました

日本ライオンズ連絡事務所管理委員会

第八回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会は八月四日、東京・日本橋の日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①会計顧問の委嘱、②二〇〇三・〇四年度収支会計報告、③二〇〇四・〇五年度収支予算書試案、④会計監査立ち会い、⑤連絡事務所移転、⑥報告事項について協議した。

①は坂下賢三税理士と正式契約。

複合地区IT委員長連絡会議

第一回複合地区IT委員長連絡会議は八月十日、東京・日本橋の日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①世話人、副世話人の互選、②申し送り事項の確認、③ITに関する問題点、④本年度の審議課題について協議した。

①は世話人に竹本實生委員長（335複合地区）、副世話人に岡野正義委員長（333）を互選。

③は日本語版WMMRは十月末をめどに切り替え。八複合地区合同サイトでマニュアル等掲載。

複合地区国際大会委員長連絡会議

第一回複合地区国際大会委員長連絡会議は八月十一日、東京・日本橋の日本ライオンズ連絡事務所で開催され、Ⅰ世話人、副世話人の互選、ⅡOSEALフォーラム①フォーラム概要、②マニラ・フォーラム参加形態、③各複合地区への登録要請、④登録人数の把握、⑤登録手続きの確認事項、⑥ジャパン・レセプション、⑦国際会長歓迎晩餐会、Ⅲ国際大会①暫定日程、②各複合地区公認コーディネーターの選出、③日本に割り当てられたホテル、④日本の参加体制、⑤パレード参加関連及び日本ライオンズ代議員会・記念夕食会について協議した。

Ⅰは世話人に井村一男委員長（337）、副世話人に高山博志委員長（331）並びに柳澤次郎委員長（334）を互選。

Ⅱ③は各複合地区で四百人を目安に参加呼び掛け。

Ⅱ⑥は330～337複合地区議長連絡会議が主催、国際理事候補者が所属する複合地区が設営。

国際理事候補者選挙管理委員会

第一回国際理事候補者選挙管理委員会は八月十六日、東京・日本橋の日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①委員長の互選、②国際理事候補者推薦手続き規則の確認、③二〇〇五・〇七年度国際理事選出の確認、④推薦要望を提出した国際理事候補者、⑤推薦要望書の内容確認と審議、⑥決定に伴う事務処理、⑦その他について協議した。

①は委員長に林榮一委員（337）を互選。

⑦はローテーション実行のために立候補意思表明の時期を早める、投票時には一名の候補者名を記載、の二点を複合地区会則委員長連絡会議へ申し送るよう提言。

日本ライオンズ連絡事務所管理委員会

第一回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会は八月十七日、東京・日本橋の日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①委員長の互選、②二〇〇四・〇五年度収支予算書、③連絡事務所移転、④報告事項について協議した。

①は委員長に池崎道男委員（330）を互選。

ライオン誌日本語版委員会

第二回ライオン誌日本語版委員会は八月二十五日、東京・築地のライオン誌日本語版事務所で開催され、①二〇〇三・〇四年度監査、②二〇〇四・〇五年度編集長計画、③九月号出来（八月十九日発行／十二万七千七百部）、④十月号以降台割と主要記事予定、⑤国際協会ウェブサイト日本語版、⑥広告指定代理店の追加、⑦不動産広告の掲載、⑧ライオンズ文庫PR、⑨その他について協議した。

⑤は日本向けオリジナル・ページの九月分更新内容を検討した。

NEWS CASSETTE

テーサップ・リー理事長を迎えLCIFセミナー開催

テーサップ・リーLCIF理事長を迎え、八月二十日青森（331・332複合地区合同）、二十三日岡山（335・336複合地区、334-A・334-B・334-D地区合同）、二十六日東京（330・333複合地区、334-C・334-E地区合同）、二十八日熊本（337複合地区）で、二〇〇四-〇五年度LCIFセミナーが開催された。リー理事長は日本ライオンズのLCIFへの献身的な支援に感謝の念を述べた後、LCIFの概要及び現況を説明、またパイロット事業を実施中の補聴器プログラムや、次年度から始まるキャンペーン視力ファーストについても触れ、更なる協力を要請した。続いて田辺憲雄LCIF資金開発課長が、LCIF交付金の種類と申請方法について、具体的に分かりやすく説明した。

執行役員メッセージ・Executive Officers Message

前国際会長／LCIF理事長
テーサップ・リー

LCIF：会員が会員を支援する

LCIFの成果は会員の支援と参加により達成されます。会員が会員を支援すること、それがLCIFの真髄と言えるでしょう。LCIFへの献金は、会員が新たな奉仕活動を生み出すためにも活用されています。皆さんがボランティア精神を発揮する媒体としての役割を果たしているのです。

LCIFは持続可能な事業計画を立案し、技能を養うことで人々の進歩を助長し、青少年や障害者が充実した生活を送れるよう支援しています。機会を与えられさえすれば、だれもが能力を最大限に発揮出来るはずであり、LCIFの事業はこのような信念に基づき実施されています。皆さんが会員であることの理由も、この信念と無関係ではないはずです。地域社会に奉仕するのは、それが自らの能力を最大限に生かすことにつながるからです。LCIFへの支援は皆さんが会員であること、自分自身であることの延長であり、他者に奉仕したいという願いを実現させる方法なのです。

国際
第1副会長
アショク・メータ

財務上の課題

世界中の会員の圧倒的多数が、会費増額に関するデンバー国際大会の決議に同意してくれました。執行役員と国際理事会はその信頼を裏切ることのないよう、財務全般に確実に責任を果たす必要があります。協会の効果的・効率的な運営を目指し、必要以上の経費や無計画な出費を排除し、新たに確保された予算を適切かつ合理的に配分することが大切です。会費の増分は若干のやむを得ない赤字補填を除き、開発上の目的に厳しく限定されます。国際協会では個々のクラブから国際本部に至るまで厳格な手順に基づく財務の信頼性が確保され、「会員の信頼にこたえる」という基本方針に沿って管理されており、私たちはその事実に誇りを感じています。

協会は会員が望む成果を達成し、会員は協会が求める支援を提供しなければなりません。会員には質問を発する権利があり、指導者にはこれに答える義務があります。会員と指導部の絆はこの絶対的前提の下に生まれるものです。

国際
第2副会長
ジミー・M・ロス

全力を尽くして会員の増強を

「奉仕を通して成功を分かち合う」ためにも、私たちはより多くの男女を入会させ、奉仕の機会を与えなければなりません。地域と世界の必要にこたえる能力は、会員が増えるほど高まるはずです。

クジアク会長の五パーセント会員純増という目標の達成には、強力なリテンション・プログラムを組織し各地域で新クラブ結成の可能性を追求することを始め、会員一人ひとりが全力を傾けて増強に取り組まなければなりません。すべての会員が献身すれば、目標は本年度末までに達成されることでしょう。しかしこのような努力は、本年度で打ち切るわけにはいきません。将来の課題に対処するため、私たちは常に一定の速度でクラブと会員を増強し続ける必要があります。本年度の目標は遠く将来まで引き継がれるべきものなのです。「ウィ・サーブ」の使命には、無限の可能性が秘められています。不屈の意志を分かち合うことにより、その事実を全世界に証明しようではありませんか。

SightFirst Update

「サイト・フォー・キッズ」
子どもたち100万人に視力検査

この十八カ月間、タイのライオンズはたくさんの小学校の教室を訪問した。タイは、視力検査と目の健康教育プログラム「サイト・フォー・キッズ」のアジアでの対象国になっている。LCIFとジョンソン&ジョンソン社が進めるこのプログラムでは、これまでに百十万人の子どもたちに視力検査を行った。そのうち二万七千人以上に治療が必要と判断され、視力を失わずにすんだ子どももいれば、視力を矯正することで学習能力を維持出来た子どももいる。

サイト・フォー・キッズでは、ライオンズクラブ国際協会と世界を代表する医薬品・ヘルスケア企業が手を結んだ。ジョンソン&ジョンソン社は五十四万五千ドルを寄付し、このプログラムを資金面で支えている。

アジアの国々で最も大きな問題は近視である。一部の国々では、十五歳以下の子どもの一五パーセント以上が重大な視力障害を抱えている。屈折異常（近視、遠視、乱視）の症例の半分は、矯正されずに放置されている。屈折異常、特に近視の矯正を行わないことは、子どもでも大人でも、失明のいちばんの原因となっている。また、視力を失わないまでも、取り返しのつかない悪影響を残すことが多い。子どもの学習の六〇パーセントは視覚を基に行われているので、矯正しないと発達を損なうことになるのだ。

既に、タイ、韓国、台湾、香港で視力検査が実施され、今後もこれら諸国とインド、中国で三十万人の視力検査が予定されている。韓国では、既に幼児の五〇パーセント以上に対して検査が行われた。その中で、治療を受ける子どもの割合は当該地域の予想される罹患率と一致している。これだけのことが、子ども一人当たりわずか〇・五五ドルで実現されるのだ。

サイト・フォー・キッズでは、何千人ものライオンズ会員や何百人ものジョンソン&ジョンソン社社員が協力し、地域や学校で行われる視力検査キャンペーンに参加している。五百人以上の教師、看護師、ライオンズ会員が、視力検査を行うための訓練を受けた。また、各対象国でこのプログラムを推進するために、ライオンズは医療、教育、NPOなどの主要団体と大規模な提携を行っている。

サイト・フォー・キッズは、LCIFと世界保健機関（WHO）が三百七十五万ドルをかけて取り組んできた小児失明防止事業の一環である。毎年二十五万人の子どもたちが視力を失っている。LCIFの小児失明防止事業では、五つの大陸で三十カ所の小児視力センターを建設することにしている。

サイト・フォー・キッズの視力検査は、ライオンズが子ども一人ひとりの眼病に取り組むことを可能にしている。ライオンズは、疑いを知らない子どもたちとその両親のために、視力という貴重な贈り物を守り続けている。

ライオンズ・クエスト・プログラム普及への動き

LCIF四大交付金事業に指定されているライオンズ・クエスト・プログラムの日本での拡大に向け、各地でセミナーや説明会を開く動きが始まっている。八月二十～二十一日には関西地区初のワークショップが、青少年育成支援フォーラム（JIYD）により京都で行われた。JIYDはLCIFから実施団体に指定され、版権管理や日本語版教材の開発、講師の養成などプログラム普及のため活動している。日本では330‐C地区が四大交付金を受け、JIYDとのパートナーシップでパイロット事業を展開した。プログラムの全国展開を図るJIYDのスケールアップ事業は、アメリカのルーセント・テクノロジー財団の助成を受けており、ライオンズのワークショップや説明会開催にも役立てられている。

デトロイト国際理事会で承認されたLCIF交付金

デトロイト国際理事会で承認されたLCIF一般援助交付金は、三十二件一三六万九、五二七ドル。うち日本への交付金（四件総額七四万七、六五〇ドル）は以下の通り。▼334‐D地区＝身体障害者用訓練施設の建設七万五、〇〇〇ドル▼336‐A地区＝アイバンク用機器の購入一万三、六六五ドル▼335‐D地区＝身体障害者用施設の設置三万四二〇ドル▼337‐B地区＝カンボジアで小学校建設（補充）三、五五〇ドル。

LCIFの新しいアワード

LCIF人類の友アワード＝LCIFへの資金援助とその使命遂行に顕著な貢献をした個人を表彰。国際会長とLCIF理事長の協議により、毎年五十人以内に授与される。受賞者にはリボン付き金メダルが贈られる。

LCIF援助の手アワード＝クラブ、リジョン、地区、複合地区においてLCIFの普及に努め、理解と援助を促進した個人を表彰。受賞者には金のラペル・ピンが贈られる。

LCIFヒューマニタリアン・パートナー＝累積献金額が十万ドル、二十万ドル、三十五万ドル、五十万ドルに達した献金者を表彰。それぞれ、ブロンズ、シルバー、ゴールド、プラチナのピンが贈られる。デトロイト国際大会の期間中に、三原晴正元地区ガバナー（福岡県・苅田）とカジット・ハバナナンダ元国際会長がゴールド・ピンを、テーサップ・リーLCIF理事長がブロンズ・ピンを受けている。また八月二十六日、東京でのLCIFセミナーで、矢部四郎元国際理事へのブロンズ・ピン授与が発表された。

新結成／解散クラブ

■新結成クラブ

東京大江戸▼結成順位／三五六三▼七月三十日結成▼熊野活行会長▼事務局／渋谷区笹塚二‐二一‐一二（〒151‐0073）TEL〇三‐五三五〇‐三八二五▼スポンサー／東京新宿、神奈川県・横浜みなと馬車道

富山いきいき▼結成順位／三五六四▼七月三十一日結成▼丸山忠正会長▼事務局／富山市桜木町一〇‐一〇　富山第一ホテル一階　シャープショールーム内（〒930‐0082）TEL〇七六‐四三九‐〇四八〇▼スポンサー／334‐D地区キャビネット事務局

■名称変更

鳥取県・米子グレート→米子グレートサウス

■解散クラブ

栃木県・鹿沼さつき／大阪なにわイースト／京都白川／岡山山陽／福岡博多祇園／長崎県・大島崎戸／沖縄県・本部／沖縄県・那覇若夏

訃報

ライオンズ神戸由雄（神奈川県・横浜イーストライオンズクラブ）八月三十日死去、79歳。六六年入会。八二年度330‐B地区ガバナー。

LCIF REPORT

報告書で見る日本ライオンズの交付金事業例

中国における貧困児童の就学支援プロジェクト

●愛知県・名古屋城東ライオンズクラブ

国際援助交付金／交付額：10,000ドル
事業完了日：2004年3月5日

▼事業概要

名古屋城東ライオンズクラブの三十五周年事業として立案された、中国の貧困地域で暮らす子どもたちへの就学支援プロジェクト。辺境の地と言われる陝西省三原県にある小学校が老朽化しているとの情報を得たことから、校舎の改築及び備品の充実を図ろうと事業計画を立案した。現地ホストクラブは、中国・深圳の筆架山ライオンズクラブ。同クラブとのジョイントは、許建文地区ガバナーが初の試みとして、国外クラブとの合同事業を強く望んだことに端を発する。地区内三十八クラブに要請したところ、筆架山ライオンズクラブが名乗りを上げ、許ガバナーから推薦を受けた。

その後、同クラブ及び、中国人民政治協商会議陝西省三原県委員会、陝西省三原県教育局が連携して事業を保証することとなった。二〇〇三年九月十二日、名古屋城東ライオンズクラブから七人が現地に赴き、実施状況の確認、協議を行った。

▼LCIF交付金の使途

LCIF交付金の百五万千五百円のほか、名古屋城東ライオンズクラブの拠出金三百万円が今回の事業資金となった。この資金で、三階建て約七百八十平方メートルの教学棟、付属設備棟の改築及び棟内に二百七十組の机、いす、黒板などのほか、コンピューター設備一式を設置した。遠隔地ということもあり、旅費などの付帯費用も多く、実際の事業費とのバランスは評価の分かれるところ。今後、十分な検討と理解が必要となるだろう。なお、今回の事業にかかわる旅費などはすべて会員の自己負担で賄われたが、事業資金で手当てする場合は更なる問題点があると思われる。

▼事業が及ぼした影響

名古屋城東ライオンズクラブが、現地訪問の上、積極的に事業に対し関与・支援したので、現地の劣悪な教育環境は大幅に改善された。これにより、地域住民の向学心が高まり、就学率が好転するものと期待される。また、校名に「名古屋城東」の名が付けられるなど、我が国への親近感が増し、友好的な雰囲気の醸成をもたらすと予測される。校舎完成時には、地元新聞社の取材を受け大きく報道されるなど、来賓や関係者、地元住民らにライオンズクラブの活動をＰＲすることが出来た。

た。
6. ライオンズクラブ国際協会インド事務局（ムンバイ）の賃貸契約をアショク・メータ第1副会長に委任した。
7. 理事会は業務用一般賠償及び超過損害保険を、エース保険会社と更新した。
8. 理事会方針書の財務の章に若干の事務処理を行った。

LCIF

1. 現在Morgan Stanley社にあるLCIFの投資を、Citigroup Smith Barney に移すことを承認した。
2. より安価な手数料と信託業務の強化という利点のために、Russell Investment Groupに委託されているLCIFの現存投資をCommon Trust Fund Agreement（非営利組織用の新投資機構）へ変更することを認可した。
3. 323複合地区のインド・グジャラート震災救援及び復興に関連した諸事業及びライオンズ団地並びにライオンズ病院竣工のため、323複合地区に対し大災害援助金30万ドルを交付することを承認した。
4. ライオンズ低価格補聴器在庫蓄積、並びに現在使われている補聴器のデジタル版開発のため、理事会指定の四大交付金25万ドルを承認した。
5. ライオンズ‐クエストを2006年6月30日まで四大交付金優先事業とすることを再認可した。
6. SF951/D-5の視力ファースト事業用交付金に不適切な使用があったため、地元の関係当局と資金を回収するための措置を取る権限をLCIFに与えた。
7. 2つの新しいLCIFアワードを承認した。「LCIF人類の友アワード」及び「LCIF援助の手アワード」は、LCIFを奨励し、献金の増大に助力した人々を称えるアワードである。
8. 更なる眼科保健教育資料を作成し、眼科保健及び女性を冒す眼病に焦点を当てた眼科研究を奨励する世界的なキャンペーンを行うために、理事会指定の四大交付金として12万5,000ドルを女性眼科保健タスクフォースに交付することを承認した。
9. 合計1,951,020ドルに及ぶ49件の一般援助交付金、四大交付金、国際援助交付金を承認し、5件を継続審議事項とし、1件を却下した。
10. 理事会方針書のLCIFに関する章及びLCIF内規を改訂し、地区ガバナーはその任期中、LCIFの投票権のない理事となるという、2004年3月に採用された内容を加えた。
11. 理事会方針書のLCIFの章に記載されている、参照の番号に間違いがあったため訂正を加えた。
12. 受賞基準を更新するために、LCIFへのドネーションに対するクラブへの感謝状交付を一時的に中断する。

リーダーシップ委員会

1. 128暫定地区（イスラエル）での指導力育成セミナーを支援するために、7,150ドルを最高額とする補助金を1回のみ交付することを承認した。
2. 50単一地区（ハワイ）での指導力育成セミナーを支援するために、4,290ドルを最高額とする補助金を1回のみ交付することを承認した。
3. ライオンズ・リーダーシップ研究会への無断欠席に関する方針の重複をなくすよう、理事会方針書を改訂した。
4. MERL委員長セミナーへの無断欠席に関する方針の重複をなくすよう、理事会方針書を改訂した。

会員増強委員会

1. スペインの116複合地区のArona-Las Galletas-Costa del Silencioライオンズクラブの結成を承認した。
2. インドネシアの307複合地区への会員増強補助金を2004-05年度も更新した。
3. スペインの116複合地区への会員増強補助金を2004-05年度にも交付することを決めた。
4. 既存または新しい学内ライオンズクラブに入会する学生の入会費は、10ドルとすることを即時有効とした。
5. 現在、結成過程にある新クラブのチャーター申請書が、2004年7月31日またはそれ以前の日付（消印有効）までに届けられた場合には、2004年6月30日に終了したチャーター費免除の適用が特別に受けられる。
6. 学内ライオンズクラブの結成に寄与した場合に受けられるアワード・プログラムを承認した。
7. 354複合地区及び355複合地区（韓国）の国際幹事事務所における運営及び職員の配置のために、資金の増額が承認された。
8. ライオンズクラブ国際協会の7つの会則地域に出来た新しいライオンズ国及び領域を加えるよう、協会のリストを更新した。

PR委員会

1. すべての公式版ライオン誌への協会の補助金を1.25ドル増額した。
2. 毎月、協会のウェブサイトに掲載されているE‐ニュースレターについて記載するよう、理事会方針書21章P項を書き換えた。

奉仕事業委員会

1. 2003-04年度の「ベスト・レオ賞」を発表した。
2. 暫定的な予定として、2005年1月27～30日にスロベニア・リュブリャナで児童及び青少年に関する国際シンポジウムを開くことを決めた。
3. 「ライオンズ環境保全写真コンテスト」を承認した。

国際理事会会議の決議事項要約

2004年6月30～7月4日
アメリカ・ミシガン州デトロイト/カナダ・オンタリオ州ウィンザー

会則及び付則委員会(予備決議)

1. 301-D1地区の地区ガバナー選挙抗議を検討した結果、2004-05年度ガバナー選挙を無効とすることが決議された。従って、同地区の地区ガバナーは空席となった。
2. 323-F2地区の地区ガバナー選挙に対して出されていた抗議は却下された。従って、選出されたライオンウダイ・シャを地区ガバナーとして認め、2004年国際大会と併合して開かれる地区ガバナー・エレクト・セミナーに出席することを許可した。
3. 323-G1地区の2004-05年度副地区ガバナー選挙に対する抗議は却下された。従ってライオンスレシ・ジャインを副地区ガバナーとして認めることが決議された。
4. 330-B地区の2004-05年度副地区ガバナー選挙に対する抗議は却下された。従ってライオン阿部英明を副地区ガバナーとして認めることが決議された。
5. 354-D地区の地区ガバナー選挙結果に関しては、申し出のあった違反行為は追加調査を必要とすることから、選挙結果の承認は延期された。

会則及び付則委員会

1. 354-D地区選挙を認め、ライオンハンオク・スーを地区ガバナーとして認めた。
2. レゴ・パーク・フォーレストヒルズ·ライオンズクラブが20複合地区ガバナー協議会に対して申し出た会則上の抗議を検討した。
3. 上記20複合地区ガバナー協議会に対する抗議申し立ては、その提出手順に不備があったため、却下された。
4. 京琳堂から提出された国際協会公認ライセンス業者申請は却下する、という前回の委員会決議を確言した。悪化する京琳堂の商標規定違反行為に対して、法律部部長が地元で法律専門家を得るなり、適切と思われる手段を講じて対処することを承認した。
5. 標準版地区会則及び付則の付則を改訂し、副地区ガバナーの空席を満たすために選ばれる会員の資格を加えた。
6. 国際役員候補者の推薦獲得に関し、標準版複合地区会則及び付則の付則を改訂し、複合地区で推薦を得るには、まず所属準地区で推薦を得なければならない、という規定を設けた。
7. 地区及び複合地区の紛争解決手順並びに標準版クラブ会則を改訂し、すべての地区及びクラブ紛争解決要請は要請申し出人がその事態を知った後、または、知っているべきであった日より30日以内に、その要請を地区紛争解決手順及びクラブ紛争解決手順に従って地区ガバナーに提出し、複合地区紛争の場合には複合地区紛争解決手順に従って協議会議長に提出されなければならないこととする。
8. 地区及び複合地区並びに標準版クラブ会則の紛争解決手順を改正し、調停者たちは関係者と開いた最初の会議から数えて30日以内に結論を通達しなければならないとする。

地区及びクラブ·サービス委員会 (予備決議)

1. 2004-05年度地区ガバナー選挙結果または任命を承認した。

地区及びクラブ·サービス委員会

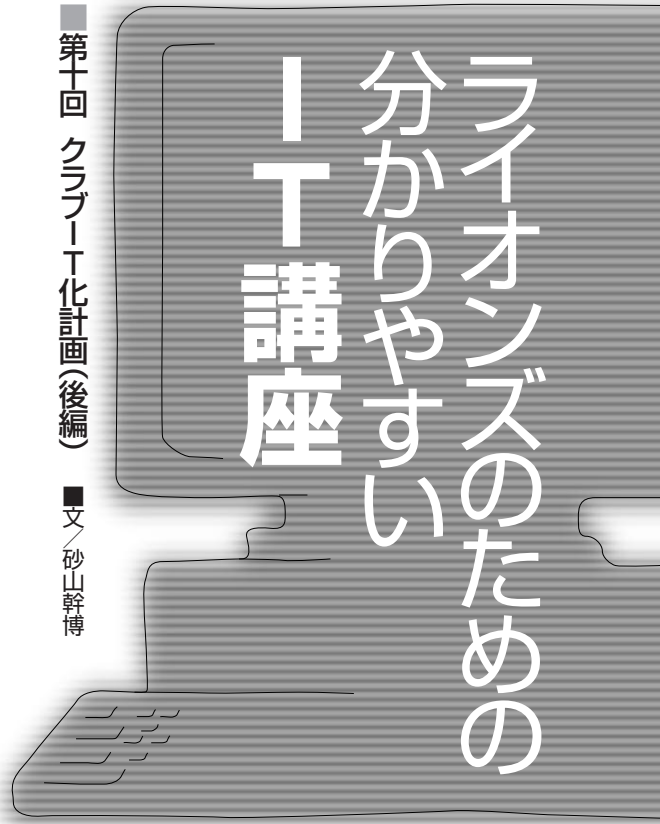
1. 誠に遺憾ながら、225クラブの解散を承認した。
2. 前会議で解散を承認したクラブのうち8クラブの解散を取り消し、正クラブに戻した。
3. 既に理事会によって承認された324-A1地区の地区分割に関し、3つの新しい準地区を組織するために一部変更を承認した。地区分割は2004年7月9日現在で発効となる。
4. 各移行地区が2004年7月1日から2年間以内にクラブ数35、会員数1,250人に到達するための計画案を樹立すること、並びにその進行過程を年に4回、理事会に報告することを承認した。
5. 次の2項目を加えるようステータス・クオ規定を改訂した。　1）再編成の際には少なくとも10人の会員を必要とする。　2）クラブのステータス・クオ処分勧告には3人の地区役員（地区ガバナー、副地区ガバナー、ゾーン・チェアパーソン）の署名を必要とする。
6. クラブ数35、会員数1,250人に達した暫定地区126地区（クロアチア）と129地区（スロベニア）は、2004年7月9日よりそれぞれ単一地区となる。

財務及び本部運営委員会

1. 一般資金投資の管理を、Morgan Stanley社からSmith Barney社に変更する。John Spaethが担当アドバイザーとなる。
2. 2004年6月30日の年度末をもって、国際協会の従来の会計年度監査役であったEarnst＆Young社の雇用をやめ、その代わりにGrant Thornton LLPを雇用することを承認した。
3. 理事会は2003-04年度第4四半期の予算見通しを承認した。
4. 理事会は2004-05年度収益予算を承認した。
5. エクステンション活動に生じる経費を国際理事及び元国際会長に支払うため、エクステンション予算を設け

ライオンズのための分かりやすいIT講座

第十回　クラブIT化計画（後編）

■文／砂山幹博

先月号に続き、クラブにおけるITの活用方法について紹介する。今回も二人の事務局員さん、IT業務のスペシャリスト、山形県・天童舞鶴ライオンズクラブの後藤よね子さんと、IT一年生、兵庫県・明石二見ライオンズクラブの藤本立美さんにご協力頂いた。

クラブのIT活用法

ITを利用したコミュニケーション・ツールとして最もポピュラーなのが電子メール。一つの情報を同時に複数の人に出すことが出来る上、瞬時に相手の元へ届く。写真や地図、文書などさまざまなファイルを添付して送ることも出来、電話や手紙などと比較しても圧倒的に低コスト。連絡を取るという行動の幅を飛躍的に広げた。

天童舞鶴ライオンズクラブではIT導入の際、通信費の削減を最大の目的と位置付け、電子メールを使った連絡網の構築を図っている。とはいえ、後藤さん本人だけがかかわる業務ならIT化もたやすいが、電子メールでメンバーと連絡を取るとなるとわけが違う。

「メール・アドレスを取得していても、それを活用していない会員が多かったため、まず最初はメールを見てもらうようにすることから始めました。やり方は簡単。週に少なくとも二～三回は会員さんに電子メールを送信するだけ。返信があったりなかったりなのですが、目的は事務局から常に連絡が入るという意識を持ってもらうこと。効果はありましたよ」と、後藤さん。

一方、明石二見ライオンズクラブでは、電子メール以外のコミュニケーション・ツールもよく利用しているようだ。藤本さんに聞いてみた。

「他の事務局さんとメッセンジャーを使って情報交換をしています。何か疑問点があった時には、すぐにだれかに質問することが出来るので便利。重宝しています」

藤本さんが利用している「メッセンジャー」とは、インターネットに接続したパソコン同士で、リアルタイムにメッセージのやり取りが出来るソフトウェアのこと。連続して同じ相手と情報の交換をする場合には、使い勝手のよいツールだと言える。IT初心者の藤本さんが、このところメキメキと腕を上げているのには、こういう理由があったのだ。

MSNメッセンジャー

IT化は何をもたらす？

クラブにITが浸透していく過程を目の当たりにしてきた事務局員のお二人。それだけにIT化については、日ごろ感じることもきっと多いはず。そこで、「ITが、クラブあるいは自分自身にどんな変化をもたらしたか」という質問を二人にしてみた。まずは藤本さんから。

「パソコンとは非常に奥が深いものだと、改めて思いました。最初は、ライオンズの右も左も分からなかった私が、今ではクラブ業務をパソコンで行っているのですから。でも、キャビネットの方にお世話になったり、他の事務局の方と情報交換する機会を得たことは、ITが介在していたから。ITによっていろいろな作業が簡素化される分、人との関係が身近になったと感じました」

後藤さんも「人」を強調する。

「これまでとは違った新しい仲間関係が出来たのではないかと思いま

す。ＩＴを共有する仲間意識、また年齢を問わず、新しいものを取り上げようとチャレンジするメンバーさんの姿勢が、クラブに活気を蘇らせたと感じました」

クラブーＩＴ化の課題

二人の事務局員さんに、今後の目標を伺ってみると、後藤さんからは「会員の電子メール・アドレス取得率一〇〇㌫」という答えが、藤本さんからは「まずは自分のスキルアップ。それと、ライオンズクラブは世界各国にあるので、ＩＴを使ってどんどん世界との距離を近くしていきたい」という答えが返ってきた。

確かにＩＴには、遠くにいる人を身近に感じることが出来たり、情報のやり取りを瞬時に行えるというメリットがあるが、反面、利用にまつわるトラブルが多いのも事実。

「発信された情報が、個人だけに止まらない場合、受け手側の判断能力や『メディア・リテラシー（メディアを適切に利用する能力）』の考え方が重要になってくると思います。ＩＴのスピード同様に、作業を早く進めようという人間の心理が働き、思わぬトラブルを起こしかねません」と、クラブのＩＴ化に長く携わってきた後藤さんはその点を懸念する。更に、ＩＴによって会員との連絡や日常の業務が簡単、迅速、簡素に進められることに賛成する一方で、一〇〇㌫ＩＴに頼ることに不安を感じてもいる。

「ＩＴを生活の一部として取り込んだ今、日進月歩のＩＴに振り回されることのないよう、取捨選択しながら自分のスピードでやることが望ましいと思います」

技術は人を助けるが、結局のところは、人あっての技術。ＩＴとは、うまくつき合っていきたいものだ。

IT虎の穴

明日のためにその十

イラスト：藤英毅

こんにちは、瞳です。(*^_^*)

最近インターネットの使い方にも慣れてきて、調べたいことはまずインターネットで検索する習慣がついてしまいました。私のお勧めの検索は「ライオンズのための分かりやすいIT講座」の第1回でも紹介されたGoogle（グーグル／http://www.google.co.jp/）というサイトです。

今回は、ライオンズクラブのホームページについて調べてみました。全国約3,400クラブのうちホームページを開設しているクラブがいくつあるのか興味があったのです。そんなクラブのリンクをしているページが、第3回「ライオンズのための分かりやすいIT講座」で紹介されたLionNetです。LionNetはライオンズクラブ国際協会のインターネット・サービスのボランティアが運営するネットワークだそうです。全世界のライオンズクラブのホームページを網羅しているこのサイトで、日本語で運営されているLionNet-Japanというページがあります（http://www.lionnet.jp/）。

このページも、ライオンズのメンバーによるボランティアで運営されているそうです。八つの複合地区とそれぞれの準地区のサイトを始め各クラブのホームページが整理されているので、全国のクラブのホームページを一つずつ探さなくても一度に見ることが出来ます。それぞれのクラブの個性豊かなページを見ているだけでも、とても楽しい気分になりました。d(-_^)

ただ、なかには、ちょっと古くて更新されていないホームページもあるようです。情報発信という意味合いからすると、出来るだけ更新はマメにして頂きたいです。

ほかにも国際協会の公式ホームページ（http://www.lionsclubs.org）や、八複合ガバナー協議会議長連絡会議が管理するホームページ（http://www.japan-lionsclubs.jp/）もあるので、いろんなデータや資料を集めるのにとても役に立ちそうです。

では、また次号でお目にかかりましょう。(^.^)/~

■ここに登場する人物または団体はすべて架空のものです。ヽ(￣ε￣)ノ

AOLインスタント・メッセンジャー

CLUB REPORT クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は56ページをご覧ください。

熊本火の国ライオンズクラブ

肢体不自由児らを招いて水遊び

県こども総合療育センター（松橋町）に入所、通院する子ども五十三人が七月二日、菊陽町の屋内プールで水遊びを満喫した。

この行事は、足などに障害があり、プールや海などで遊ぶことが難しい肢体不自由児らに「安心して水遊びをしてもらおう」と、県肢体不自由児協会が、熊本火の国ライオンズクラブと県医師会の共催で毎年実施している。

この日招待された子どもたちは準備体操をした後、保護者らと流れるプールなどに入った。プールには浮輪やボートに乗って水の流れを楽しむ子どもたちの歓声が響いた。

同センターの坂本公宣所長は「泳ぐ機会が少ない子どもたちが毎年楽しみにしている行事。関係者の皆さんに感謝したい」と話していた。

（『西日本新聞』7月6日）

（編）一九八二年から行っている継続アクティビティの一つ。障害を持った子どもたちにとっては、機能訓練も兼ねたイベントです。

連絡先↓TEL〇九六・三二四・四三〇二

イラスト／篠田和夫

大分県・九重ライオンズクラブ

「ゴミゼロ作戦」の月、清掃キャンペーン

九重ライオンズクラブ（小幡憲一会長／40人）は、毎月第二日曜を清掃奉仕の日と定め、町内四地区で幹線道路の巡回清掃奉仕を行っています。

去る六月の清掃の折、国道三八七号線の土手下でたくさんの不法投棄ゴミを発見したのを機に、特別清掃一大キャンペーンを展開することになりました。

ちょうど六月は、広瀬勝貞県知事の提唱する「ゴミゼロ作戦」の月。これに賛同すると共に、環境美化の啓蒙とクラブ活動のPRを兼ね、九重ライオンズクラブが提案実行母体となって、該当団体に呼び掛けました。

九重町役場環境保全担当課には特別にゴミ収集車を配車して頂き、軽トラック五台分のゴミを集めました。

また、玖珠警察署には国道沿いの作業の安全確保のため、パトカーによる交通指導をお願いしました。

今回の取り組みでは、ライオンズ会員自らが清掃奉仕する大切さと共に、関係団体への呼び掛けや、地域住民への啓蒙活動も大切な取り組みであることを実感しました。

（事業委員長／竹尾友彦）

（編）日ごろから、地域でリーダーシップを発揮しているライオンズ。本領発揮とばかりに、自治体や他団体との連携において中心的役割を果たしました。

連絡先↓TEL〇九七三七・六・二四五八

東京五反田ライオンズクラブ

「思いやる心を育む時間」支援

東京五反田ライオンズクラブの今期のテーマは「福祉と調和」。高齢者と若者、障害者と健常者が互いに協力し合い、思いやりを持つことの大切さを知ろう。これからの時代の福祉は、老若男女が共に暮らす「共生社会」の構築が必要、との上野広吉会長のスローガンの下、最初のアクティビティを行いました。

品川区立東海中学校の濱口校長からの依頼もあり、二学年総合学習「思いやる心を育む時間」の講演会に、「言葉に頼らないコミュニケーション」と題して、現代人形劇「デフパペットシアターひとみ」の庄崎隆志代表に講師を依頼しました。

氏は聴覚障害者でありながら演出、脚本、役者の三役をこなし、健常者との架け橋となる活動を行っている方。学校側のねらいは、「言葉に頼らないコミュニケーションの方法を知る」「感じたままを自由な形で表現し、〈見えないものを見る、見せる〉体験を楽しむ」「視覚・聴覚障害者との意思疎通を考える機会とする」など。開催場所の同校体育館には生徒百一人が集まりました。

幕が開いて、庄崎氏が自分の名前をホワイトボードに書き、得意のパントマイムを始めると、生徒たちはその演技に吸い寄せられ真剣なまなざし。氏の指先一本で百一人の生徒が自由自在に動き回ったり、見えないドアを出入りしたり、見えないボールでキャッチボールをしたり。言葉を発さずとも、庄崎氏と生徒たちとの意志疎通は見事なものでした。

生徒たちの純真無垢な笑顔を見て、このアクティビティの成功を実感すると共に、パソコンや携帯電話等の普及によって多様化した犯罪から生徒らを守るためにも、地域や学校とのつながりを大切にしなければと痛切に感じました。

（青少年育成委員長／金子正秀）

（編）あっという間の二時間の講演のあと、庄崎氏と一緒の給食に生徒たちは大喜び。手話を教えてもらったり、話をしたり、時間がいくらあっても足りないほどだったとか。他学年の先生からは「ぜひ来年も自分たちの学年に見せたい」と好評だったそうです。

連絡先↓TEL〇三‐三五五二‐九一〇一

長崎県・諫早ライオンズクラブ

本明川の清掃奉仕

七月十八日早朝、ライオンズ・メンバー三十五人の出席を得、諫早の母なる川・本明川の清掃が行われた。

一九五七年七月二十五日、諫早地方を襲った豪雨は一日で千ミリ以上の雨量を記録。諫早市を流れる本明川が氾濫し、五百三十九人もの市民が犠牲となった。その慰霊祭として、毎年この日に市主催で諫早の川祭りが行われ、今では市民が楽しみにする行事の一つとなった。

今年も多くの市民からの浄財によって、川面に二万三千本のローソクが点灯され、また千五百発の打ち上げ花火が打ち上げられた。

この川祭りに先駆けて、毎年各ボランティア団体が本明川の大清掃奉仕を実施している。もちろん諫早ライオンズクラブも、午前六時の打ち上げ花火を合図に区域内のゴミ清掃開始。環境保全委員会の主幹で無事今年も継続アクティビティを完了した。　（ＰＲ委員会会長／吉岡敏昭）

（編）犠牲者の冥福を祈り、防災の誓いを新たにする祭り。清掃奉仕は大切な前準備となります。

連絡先↓TEL〇九五七‐二二‐三〇一四

新潟県・燕ライオンズクラブ、燕ライオネスクラブ

三条市に水害義援金

燕ライオンズクラブ（佐藤文孝会長／42人）と燕ライオネスクラブ（原田マサ子会長／44人）は七月二十二日、「七・一三水害」の義援金を燕市を通じて隣接の三条市に寄付した。寄付金は会員から募ったドネーションに会計から不足分を加えたもので、燕ライオンズクラブは二十万円、燕ライオネスクラブは五万円。

午後四時ごろ、佐藤、原田両会長を始め、両クラブの幹事、会計ら七人が燕市役所を訪れ、のし袋に入れた寄付金を高橋甚一燕市長に手渡した。佐藤会長は「直接お渡しすることも出来るが、市長を通じた方が話が早いだろうと思ってお持ちしました」と話し、両クラブの中にも三条市の災害ボランティアに参加している会員が何人かいることを紹介した。

高橋市長も燕市として炊き出しや応援の職員の派遣、ごみ搬出の協力などを行っていることを紹介し、「やはり三条は隣だから、燕がいちばんやらないとだめ。」と話していた。

寄付金は週明けに燕市や課長会、職員組合などの見舞金と一緒に、中埜邦雄助役が三条市の災害対策本部に届ける。（『三条新聞』七月二十六日）

（編）会員からドネーションを募り、素早い対応が出来たのは、ライオンズならでは。更に、困っているのが隣町の人たちとあれば、いつも以上に力の入ったアクティビティとなったのではないでしょうか。

連絡先→TEL〇二五六・六六・〇八八五

栃木県・大田原ライオンズクラブ

夏休み前、中学校で薬物乱用防止を訴える

市薬物乱用防止ボランティア（本堂敏雄会長）と大田原ライオンズクラブ（国田沃男会長／31人）は七月十三日、市内の野崎中学校で「薬物乱用防止教室」を開いた。

夏休みを前に、子どもたちに覚せい剤やシンナーなどの薬物乱用の恐ろしさを訴える狙い。教室には、全校生徒二百七十人と教職員が参加。大田原警察署生活安全課の阿見宏行係長から薬物乱用の恐ろしさについて講話を聞いた。

阿見係長は「やせられるからなどと覚せい剤に手を出す若者が増えているが、薬物は一度手を出したらそれで終わり。『ちょっとだけ』とか『一度ぐらい』と軽い気持ちで使用しただけでも幻覚や幻聴など、取り返しがつかないことになる」と薬物乱用の恐ろしさを訴えた。その後、薬物乱用防止ビデオ「ダメ。ゼッタイ。」を見て、薬物には絶対手を出さないことを誓い合った。

同ボランティアは、薬物乱用防止と青少年の健全育成を目的に、市内小中学校などで巡回教室を開催している。（『下野新聞』七月十五日）

（編）薬物乱用防止教室は、市内三つの小中学校で実施されました。軽い気持ちで薬物に手を出す若者が多いと言います。その恐ろしさを訴えることは、私たち大人たちが果たすべき役割でしょう。

連絡先→TEL〇二八七・六五・五六七七

茨城県・美野里ライオンズクラブ

キューバ代表選手が中学生らと交流

アテネ・オリンピックに出場する野球のキューバ・ナショナルチームの選手が七月十八日、町立美野里中学校を訪問。同校野球部の生徒に投球法を指導するなど交流を深めた。

交流会は、子どもたちに世界水準の野球を知ってもらいたいと美野里ライオンズクラブ（野村幸司会長／23人）が企画。町でキューバ音楽のチャリティー・コンサートを開催したことがきっかけで同国との交流が始まり、選手たちの訪問が実現した。

美野里中を訪れたのは、日本代表との壮行試合にも出場したミチェル・エンリケス三塁手ら選手四人。同校野球部や少年野球チームなどの子どもたち合わせて約百人が参加した。

子どもたちは、選手たちからボールの握り方やピッチング・フォームなどの指導を受けた。グラウンドでは中学生投手とエンリケ選手の対決もあり、エンリケ選手の豪快な打球に会場から大きな歓声が上がった。カルロス・セペロ三塁コーチは「キューバは暑い国。暑い中でも練習に耐えている。毎日練習することが大事」と球児らにメッセージを送った。

野球部キャプテンでキャッチャーの内田周佑君（中二）は「目の前で早いスイングを見ることが出来た」と一流のプレーに刺激を受けた様子。将来はプロ野球選手を目指しているという武藤義人君（小六）は「キューバの選手たちは大きく見えた。いつかは対戦してみたい」と夢を語った。　（『茨城新聞』7月19日）

（編）この後、アテネ・オリンピックでは見事、金メダルに輝いたキューバ・チーム。子どもたちはこの出来事を一生忘れることはないでしょう。

連絡先→TEL〇二九九・四八・一二〇九

佐賀県・唐津レインボー・ライオンズクラブ

老人の買い物介助

唐津市相知町の盲養護老人ホーム・サリバンの入所者ら三十八人がこのほど、ジャスコ唐津店でショッピングを楽しんだ。唐津レインボー・ライオンズクラブ（前田寅男会長／34人）の介助を受けながら、入所者は衣類などを買い求めていた。同ライオンズクラブは、買い物介助やクリスマスにケーキを贈るなどサリバンと交流を深めている。買い物は毎年この時期に実施しており、この日は会員三十人が参加した。

会員と腕を組んだ入所者は、衣類やはき物、日用雑貨、食品売り場など店内をじっくりと回った。商品を手に取り、会員らに商品の色や形などを尋ねてレジへと向かった。買い物の後は、店内で昼食を味わい、楽しい一日を過ごしていた。

（『唐津新聞』6月16日）

（編）買い物や外出は、いい気分転換になるものですが、目が不自由な渡辺お年寄りは、そうした機会が持ちにくいことでしょう。日常的な楽しみこそが、何よりも求められているのかもしれません。

連絡先→TEL〇九五五・七三・六八四九

兵庫県・今田ライオンズクラブ

YE来日生が陶芸体験

今田ライオンズクラブ（大西五郎会長／19人）が一月六日、阪神間のライオンズ会員宅でホームステイしているマレーシアの学生ら十四人を受け入れ、陶の里で陶芸教室を催すなどして交流した。

今田ライオンズクラブは、青少年健全育成事業の一つとして二十六年前から毎年、海外の学生たちを今田町に招待している。

学生たちは慣れない手つきで土を触り、灰皿、花びん、コップなどを創作。形が出来上がると自由な感性で絵付けに挑戦した。コーヒーカップとお椀を作ったキフイピンさん（二〇）は、「陶芸はテレビで見たことはあるが、実際に挑戦するのは初めて。こんなに楽しいとは思わなかった」と声を弾ませていた。

昼食の後は、同館を見学。学生たちは「焼物の郷」で日本の伝統文化を体感した。大西会長は「学生たちが陶芸を楽しんでいるのを見て、毎年この事業を続けたいと思った」と話していた。（『丹波新聞』1月11日）

（編）作っては壊れる粘土に悪戦苦闘したYE交換生たち。でも、出来上がった作品を見て喜ぶ表情からは、やり遂げた満足感が窺えました。

連絡先→TEL〇七九五・九七・二二五五

青森県・黒石鳥城ライオンズクラブ

ゲンジボタル鑑賞パーティー開催

黒石落合でゲンジボタルの住める環境作りを進める「くろいし〈ホタルの里〉整備実行委員会」（黒石鳥城ライオンズクラブなどによる合同組織）は七月十日、津軽伝承工芸館でホタル鑑賞パーティーを開き、幻想的に舞う姿を確認。更に多くのホタルが乱舞する里を目指して整備していくことを誓い合った。

同会は、ホタルが飛ぶきれいな環境を子どもたちに残していこうと、昨年から同工芸館駐車場奥の敷地を「ホタルの里」として整備。水路の改修やホタルの餌になるカワニナを放流するなどの活動を続けてきた。今年五月には、市内の東雲幼稚園と黒石養護学校の子どもたちと共にゲンジボタルの幼虫二千匹を放流し、ホタルの飛び交う夏に思いを馳せた。

これらの活動が実り、六月下旬からホタルの飛び交う姿を確認。最盛期を迎え、この日初めての鑑賞パーティーを開いた。

約三十人の参加者は、津軽伝承工芸館で会食した後、ホタルを鑑賞するために屋外へ移動した。駐車場から草地を通り水路まで来ると水面に明かりを映しながら飛ぶヘイケボタルを確認。更に山手へ進むと、ヘイケボタルより大きな明かりを放って飛ぶゲンジボタルの舞う姿が見られた。

参加者は暗闇の中、ホタルの温かい光を放ちながら飛び交う幻想的な情景に酔いしれながらも、手前の水路への植栽の必要性などについて話し合い、ホタルが住みやすい場所にしていくことを誓い合った。

村上会長は「ホタルが定着するまでは五年ほどかかる。まだ数が少ないので、捕まえないで温かく見守ってほしい」と話した。

同会では、今後も活動を盛り上げていくために随時、会員を募集している。（『津軽新報』7月14日）

（編）かつては日本中の畦道や小川で見られたこの幻想的な光が、なぜ激減していったのか。自然の大切さを考えさせられるアクティビティです。

連絡先→TEL〇一七二・五二・二五七今

まるごと337複合地区

ROAR ローア

門司港レトロ地区（福岡県北九州市）

海地獄（大分県別府市）

武家屋敷（長崎県島原市）

田原坂公園（熊本県植木市）

川平湾（沖縄県石垣市）

白川の環境を守るネットワークと「リバーウォッチング大会」。

熊本龍峰ライオンズクラブ
■取材／編集部

熊本龍峰ライオンズクラブ（田尻清輝会長／33人）は二十年ほど前から、熊本市内を流れる白川を舞台にした環境保全活動を続けている。小中学生を対象にした「リバーウォッチング大会」は今年で五回目を迎えた。また一昨年の秋には、流域で活動している市民団体などと共に「白川流域リバーネットワーク」を発足。川への関心を高めながら、流域全体の交流を図ろうと活動している。

熊本市内を流れる白川の川面に子どもたちの歓声が響きわたる。場所は市中心街からそう遠くない子飼橋下。子どもたちは次々に川岸からジャンプし、水中に飛び込む。都市部を流れる川ではまずお目にかかることのないこの光景は、熊本龍峰ライオンズクラブが主催する「リバーウォッチング大会」での一幕である。

阿蘇山を水源としカルデラの南側を流れる白川は、北側を流れてきた黒川と合流して熊本市の中心部を下り、有明海へと注いでいる。市民にとって親しみの深い川だ。環境保全に力を注ぐ熊本龍峰ライオンズクラブは、クラブ結成当初からこの白川でのアクティビティに取り組んできた。一九八六年から九年間にわたって手作りイカダ下り大会を開催。川の清掃活動も実施した。この大会が渇水などを理由に中断した後、二〇〇〇年からは小中学生を対象にしたリバーウォッチング大会を開いている。子どもたちの自然環境への関心を育てるため、まずは川を「見る」ことから始めようという催しだ。

第五回目を迎える今年のリバーウォッチング大会は八月一日に開催。八月最初の日曜日となったこの日はまた、「第一回しらかわの日」でもある。熊本龍峰ライオンズクラブを始め十九団体が参加する「白川流域リバーネットワーク」が主催。流域の一斉清掃に取り組むと共に、参加団体が各所でさまざまなイベントを開こうという企画だ。

熊本龍峰ライオンズクラブは、以前から流域で活動する住民グループにネットワーク作りを提案してきた。国土交通省の呼び掛けもあり、白川流域リバーネットワークの発足に漕ぎ着けたのは〇二年秋のこと。川と人の絆を蘇らせ、流域の環境を保全するため、情報交換と人的交流を図ることがその目的だ。

「川は自然環境のバロメーター。川をきれいにすることが、流域そして地球全体の環境保全につながる」。「第一回しらかわの日」実行委員長を務める清家紀昭リジョン・チェアパーソンはそう話す。しらかわの日当日は国土交通省、各自治体などの協力を得て、熊本市内や阿蘇一の宮町、菊陽町など九会場を中心に大勢

の市民が参加した。リバーウォッチング大会の子飼会場でも、近隣の高校生や大学生のグループが飛び入りで加わって河川敷のゴミを拾い集めた。

この日は台風の接近で一時はリバーウォッチング大会実施が危ぶまれたこともあり、参加者は例年より少なかったが、それでも子どもたちや保護者、協力団体など総勢百七十五人が参加した。大会は水生生物観察、白川発見クイズ、水切り石投げ選手権、カヌー体験と多様な内容で、それぞれのプログラムはライオンズや協力団体が担当した。

ライオンズの担当は水生生物の観察。川に棲む虫を採取して分類し、その種類によって川の汚染度を調べるというものだ。カゲロウなどごく小さな虫が多く、なかなか見つけられない子どもたちに、メンバーたちは慣れた様子で居場所を教えている。聞けば、交替で県が主催する水生生物調査の指導員の講習を受けているのだという。この日は県の環境保全課職員の協力も得て、子どもたちは水の透視度など水質調査も体験した。

水切り選手権と白川発見クイズには賞品も用意され、子どもたちは楽しみながらも真剣な様子だ。クイズを担当したアースウィング・レオクラブは熊本龍峰ライオンズクラブの二十周年を記念して昨年結成。メンバーは九州東海大学エコロジカルネットワークの学生を中心に構成されている。白川の清掃活動や子どもたちへの環境学習を目的としたサークルで、白川での活動が縁でレオクラブ発足に結びついた。

昼食をはさんで、午後には白川流域リバーネットワークの一員であるNPOわんぱく探検隊の指導でカヌー体験。すっかり川に親しんで、最後には泳いで川を横断した子どもたちの顔は皆、生き生きと輝いていた。

カブトガニに始まった環境保護で、行政と市民活動の接点となって活躍するライオンズ。

田中興人（佐賀県・伊万里ライオンズクラブ／クリーン伊万里市民協議会会長）
■取材／編集部

佐賀県・伊万里ライオンズクラブ（中島孝行会長／97人）が、「生きた化石」と呼ばれるカブトガニの産卵地保護に取り組んで二十五年になる。その活動は、他の市民団体を巻き込んで伊万里の環境浄化を目指すクリーン伊万里市民協議会の発足に発展。伊万里市では「環境はライオンズ」という評価が定着し、それがクラブの活力にもなっているという。

――まずはカブトガニの産卵地保護の活動について伺います。田中さんは長年、カブトガニを守る会の会長を務めておられました。二十年ほど前にも本誌で取材させて頂いたことがあるのですが、たいへん息の長い活動ですね。

「伊万里ライオンズクラブが主体となって伊万里市カブトガニを守る会を設立したのが一九七九年ですから、もう二十五年になります。そもそもは現在の守る会会長である原田久美先生（伊万里ライオンズクラブ会員）が顧問を務めておられた伊万里高校生物部が六四年に調査を始め、六六年に多々良海岸で初めて産卵地を発見したのがきっかけでした。守る会の保護活動は、その地道な調査研究を基にして始まったんです」

――その調査が始まったころにはたくさんいたんですか。

「もう至る所にいた。伊万里湾一帯で数千と生息していたでしょう。産卵地もたくさんありました。しかし、ここ三十年あまりで開発のために干潟の埋め立てが進み、各地の自然海岸が消滅してしまいました」

――生息場所がなくなってしまったわけですね。

「今では多々良海岸が伊万里湾で唯一の産卵地です。カブトガニの産卵と成長には砂地が必要ですから、清掃活動と同時に砂の補充も続けています。七月の産卵期には、毎年カブトガニの産卵を観る会も開いていますが、やはり数は減っている。今年これまでに確認されたのは百四十三つがい。原田先生のお話ではこれが百を切るようになると絶望的だということです。たいへん厳しい状況ですが、何とか現状を維持していきたいですね。四億年ものあいだ生き抜いてきた生物ですから。こうした努力が報われるかどうかは別として、こうした活動で伊万里ほど研究機関と実行機関、それに行政と市民の関係が非常にうまくいっているところはないと思います」

――それにはクリーン伊万里市民協議会の存在が大きいと思いますが、守る会の活動から協議会発足に至った経緯を教えてください。

「カブトガニの保護のためには清掃をしているだけじゃだめで、環境浄化をやろうじゃないか、ということになった。その活動のいわば基礎体力を高めるために、市内で社会活動を行う団体に呼び掛けて、一九九四年に十二団体が集まるクリーン伊万里市民協議会を発足させました。ライオンズクラブを始めロータリークラブ、ソロプチミスト、青年会議所、婦人会などが加わっています。その中で伊万里の環境浄化、保護運動に一つの方向性を持たせる。それで市に申し入れをしたり、今度はこんなことをやろうと提案も出てきます。全体で方向づけを行って、各団体はそれぞれの特色を生かして活動していくわけです」

――この協議会の組織を作ることで、どんな利点がありましたか。

「単独で活動するよりも行政との連携が取りやすいという面があります。区長連合会や婦人会なども加わっています

から安心感があるようです。実際のところ、活動においても資金面においてもライオンズが主体なんですが、幅広い市民活動となって効果が大きい。現在はライオンズのメンバーによる活動、資源循環型の社会を目指す『はちがめプラン』というプロジェクトが進行しています。この辺りではカブトガニのことを『はちがめ』と呼ぶ。環境問題のシンボルになっているんです。伊万里ではそうした環境への取り組みの原点にライオンズクラブの存在がある。行政も市民も、『環境のことはライオンズ』と言う。これは間違いないです」

――ライオンズの活動がよく知られているということでしょうか。

「クリーン伊万里協議会にはライオンズから年間活動資金として三十万円を頂いていますが、最近力を入れているのが啓発ビデオです。一本二十分程度の番組として伊万里ケーブルテレビで三十回ほど放映してもらっています。これまでに四本作りました。一本の制作費が十万円、放映は無料です」

――案外と安いものなんですね。

「ケーブルテレビとしても公共性のある番組を放映する使命がありますから。このビデオの中でライオンズクラブの活動も紹介されていますから、効果は高いですよ。伊万里ライオンズクラブには現在九十七人の会員がいて、今年度は百人を超える見込みですが、少なからず影響していると思います」

伊万里ライオンズクラブが中心となって建立された駅前のモニュメント

――ここ数年はどこのクラブも会員の減少に悩んでいますから、他クラブから見るとうらやましい状況ですね。

「やはり社会活動をしっかりとして、それをアピールし、広めていることが大きい。ライオンズクラブでなら伊万里のために役立つ活動が出来ると、そう思わせる実績があるからこそ、会員が減ることがないのだと思います」

――そうなると会員の招請もやりやすいでしょう。

「百人近い会員数というのは、大きな力になります。行動力、発言力が強くなり、資金力が豊かになる。伊万里ライオンズクラブの組織力、行動力は市民に対するアピール度が非常に高いです。クラブのあり方を考えた時、何を目的にするか、存在理由をどこに見つけるか。伊万里ライオンズクラブの場合は、行政と市民活動の接点になってリードするという理念がはっきりしている。それがあるから、市民にアピール出来る。私はそう思います」

たまゆらの湯子供将棋大会

宮崎センチュリー

宮崎市の中心を流れる大淀川河畔に、川端康成の小説「たまゆら」の舞台ともなった、たまゆら温泉がある。古代のアクセサリー勾玉が、互いに触れ合う時のかすかな響きを表す「たまゆら（玉響）」という言葉のように、風情あふれる温泉街だ。

ここで開かれる将棋大会と聞けば、さぞや風流だろうと思いきや、宮崎センチュリー・ライオンズクラブが主催するのは「たまゆらの湯子供将棋大会」。対局の後ろで「そこは違う！」と口を出したり、「〇〇ちゃんに負けたー」と泣き出す子がいたり、なかなかにぎやかである。

入会間もないある女性会員の「将棋大会はどうでしょう。家族みんなで楽しめるような大会があれば……」という発言から出発した同大会。今年八月二十九日で三回目を迎えた。県内の小学生が、高学年A、同B（初級者）、低学年の三クラスに分かれて、予選リーグと決勝トーナメントで争う。初回から日本将棋連盟宮崎子供支部の協力を得ており、成績によっては昇級、昇段も認定される。

小学生による犯罪も取りざたされる昨今、日本伝統文化である将棋に親しむことで、集中力や忍耐力を養ってほしいと同クラブは考えている。また、たくさんの友だちや、メンバーを始めとする大人たちとも交流し、家庭での話題の提供にもつなげたい。今年の会長スローガン「友情と対話　出来ることからWe Serve」にも示されるように、身近な活動から感動を引き出していくのがクラブの意図するところだ。

情報／斎藤利美（幹事）

ラジオ放送で「地域に声の届く奉仕活動」

沖縄県・糸満

時刻は日曜の午後六時。時報の後、中島みゆきの「地上の星」の曲が流れる。「プロジェクトXか」と思いきや、「皆さん、こんばんは。時刻は六時を回りました。地域に奉仕する糸満ライオンズクラブが76・3メガヘルツFMたまんの電波に乗って一時間お送りします」とトークが始まる。

糸満ライオンズクラブは、二〇〇三年度のクラブ・テーマ「地域に顔の見える奉仕活動」の一つとして、地域コミュニティー・ラジオ放送局FMたまんを活用。〇三年九月から一年間、日曜日の午後六時から一時間の生放送を行った。内容は、多くのリスナーに聞いてもらえるよう音楽を中心

Close up クローズアップ

町づくりにも大活躍の博多ごりょんさん

西川ともゑ（福岡桜）

博多で商家のおかみさんのことを「ごりょんさん」と呼ぶ。博多祇園山笠など、祭りとなるとのめり込む旦那衆に代わり、家と商売を切り盛りする。かつては裏方として内助の功に徹するのが当たり前。しかし現代のごりょんさんたちは積極的に町づくりに活躍している。L西川ともゑは「博多ごりょんさん・女性の会」の会長。中洲にある創業七十九年の料理店、博多石焼「大阪屋」のごりょんさんで、生粋の博多っ子だ。

会が発足した十二年前、博多の街は空洞化が進み活気が失われていた。そんな中、那珂川の花いっぱい運動や博多の料理教室、地域活性化の拠点「博多町屋ふるさと館」での文化活動など、女性らしい視点で活動してきた。JR九州の依頼で博多祇園山笠「水かけツアー」の案内役も務める。山笠の「勢い水」の水かけを体験するこのツアー。L西川は、上から降り注ぐように、「気持ちよかろう」と思いやりを込めるのがコツと伝授している。

歴史ある商都・博多には、一年を通じてたくさんの祭りがある。その伝統を受け継ぎ次世代に伝えたいと言う。会のメンバーと一緒に小さな祭りにも出かけていき、途絶えかけた祭りの復活に一役買ったこともある。昔も今も、ごりょんさんさんたちの活躍が博多の活気を支えている。

取材／編集部

に構成。クラブ・アクティビティである献血、チャリティー・ボウリング、清掃活動などへの参加を呼び掛け、活動の実況中継や報告、また会員紹介なども取り入れた。毎週約十二分間の医療相談コーナーでは、月ごとに「診療科」を変え、クラブ・メンバーの医療関係者にインタビュー。総論やQ&Aなど、患者の立場から医師に尋ねる企画が好評を得た。

自然と番組の内容やリクエスト曲などが、会員ばかりでなく、地域の人々の間でも話題となり、アフター・ファイブには酒のツマミになった。地域社会でライオンズへの理解が進んだことを実感出来る事業となった。

情報／宮永良一（会長）

Close up クローズアップ

カレーハウス いまむかしの 面白メニュー

平井暉澄（大分県・玖珠）

「お茶漬けカレー」と聞いて、皆さんは、どんなカレーを想像されるだろう。と、ここまで読んで左の写真を見た方、「残念！」。これはまた、別のカレーだ。平井（ライオン）が自衛官退職後に始めたカレー専門店「カレーハウスいまむかし（玖珠町塚脇／国道二一〇号線沿いの水車が目印）」の人気メニューの一つが、お茶漬けカレー。ほかにも、たこ焼きカレーや納豆カレーなど、衝撃的なメニューが並ぶ。「まずは話題作りを、とちょっと変わったカレーをメニューに採り入れてみたんです」と、お茶漬けカレーの発案者・平井夫人は言う。

ちょっとどころではないと思うが、メニューに載るのは試行錯誤を重ねた末の自信作だけ。ルーも、最低四日間は煮込むという「ど根性カレー」。話題だけじゃなく、味にも絶対の自信があるのだ。

ところでお茶漬けカレーの正体は、浅く大きめの器（小石原焼のオリジナル）に広がる緑のお茶の海と、そこに浮かぶ白いご飯の島。島の中央には濃いめのルーがかかり、その中心に赤い梅肉という感じだ。で、写真はトマト・カレー。断っておくが、トマトを煮込んだカレーではない。トマトの天ぷらがトッピングされているのだ。

取材／編集部

りんどう杯車いすバスケットボール大会

福岡県・久留米りんどう

左手で車輪操作、右手でドリブルをしながら猛烈な勢いでゴールに突進した選手が、次の瞬間、急ブレーキを掛けたかと思うと、シュート！ 観客席からどよめきと拍手がわき起こる。

観客席には中学生が多い。試合同様に熱い応援合戦を繰り広げる。車いす同士の激しいぶつかり合いに目を凝らし、カメラのシャッターを切る生徒もいる。

久留米りんどうライオンズクラブの車いすバスケットボール大会は今年で二十一回を数えた。参加チームは十四チーム。九州だけでなく広島からも、自ら車を運転してやってくる。

中学生の観戦が開催方針に組み込まれたのは、大会取りやめの話が持ち上がった時だ。青少年育成・市民教育文化という項目を付加して継続を可能にしたのだが、この危機が、大会に奥深い意義を与えることになった。生徒たちは観戦の感想文集を作成、各方面に配布するのだが、そこには彼らの素直な発見と感動があふれている。そして選手たちにとっても、試合での活躍を通じて中学生に感動を伝えられるということが大きな喜びとなる。

更に、近年は生徒たちにカメラを貸し出し、試合を写した作品を公共施設や商店街に展示している。選抜中学生チームとの体験試合も組み込ま

れるようになった。

一つのアクティビティが市民の間に枝葉を伸ばすように、地域奉仕の感動の輪が広がっていく。それこそがライオンズの精神だと久留米りんどうライオンズクラブは信じる。

情報／江口信夫（幹事）

カンボジアに光を射し込む学校建設

337-C地区 第2リジョン第1、第2ゾーン合同

昭和の初め、日米親善の祈りを込めてアメリカに送られた日本人形「ミス長崎」長崎瓊子（たまこ）の里帰り展が、二〇〇三年四月に島原で開催された。同展主催者はこの時に寄せられた市民の善意の余剰金を国際親善に役立てるために、カンボジアでの学校建設を計画。同国に病院建設の実績を持つ長崎のライオンズクラブ（第2リジョン第1、第2ゾーン）が協力を求められた。LCIF交付金も得て「タマコ・ラクサメイ・サマキ小学校」が完成。〇四年六月七日、現地でカンボジア政府主催の贈呈

SERVICE ACTIVITIES

大分県・竹田（337-B）
7月17、18日に行われた、竹田市に夏を告げる「竹田夏越祭」に協賛。市内城原神社からの神輿の運搬奉仕活動を行った。

佐賀県・唐津レインボー（337-C）
5月15日、児童養護施設聖母園の子どもたちを招待し、唐津くんちの曳山展示場や唐津焼窯元を見学。その後ボウリング大会では和気あいあいとプレーを楽しんだ。

熊本県・宇土（337-D）
2月14日、第27回ライオンズ旗争奪小学校球技大会を開催。エントリーした約500人の小学生選手が迫力ある試合を繰り広げ、また他校の児童同士の交流も深めた。

記念式典が開かれた。
長い内線で疲弊したカンボジアでは、子どもたちの教育にまで手が回らないのが現状。そんなこの地に立てられた学校は、まさにその名の通り一筋の「ラクサメイ（光）」である。「たくさん勉強したい。学校の先生になりたい」と語る子どもたちの夢に国の未来が託される。
式典であいさつに立った日本大使館員の「どうか子どもたちを学校に登校させて、途中でやめさせないで」という父母への呼び掛けからも分かるように、厳しい現実もある。そうした中でライオンズは関連団体と協力し、学校に込められた希望を実現するために、次なるステップを踏み出した。図書館の建設、絵画のワークショップの開催などが計画されている。百年は掛かるだろうと言われるカンボジア復興に向けて、重要な役割を担う教育面での後押しを続けていく。
情報／平山兼則（長崎北ライオンズクラブPR委員長）

鹿児島県・国分隼人天降川縄文（337-D）
5月22日、上野原縄文の森で「紙トンボと縄文手品」を開催。小学生ら45人が参加して、自分で作った紙トンボを上手に飛ばしたり、縄文手品も演じられるようになった。

鹿児島黎明（337-D）
4月、養護施設三州原学園との交流会で新1年生にランドセルを贈呈。ゲームや食事も一緒に楽しんだ。

宮崎県・都城中央（337-B）
3月21日、どんぐり1000年の森を作る活動に参加、植樹を行った。大淀川を元気にするために上流域にある山にどんぐりの森を作ろうという環境保全活動。

ふるさと探訪

福岡県 甘木

古処山の山懐に抱かれた静かな城下町
筑前の小京都・秋月を歩く

■取材／編集部

ラストサムライと秋月の乱

映画「ラストサムライ」は一八七六～七七年（明治九～十年）の日本を舞台にしていた。一八七六年と言えば、廃刀令が出て不平士族の乱（神風連の乱、秋月の乱、萩の乱）が起きた年で、翌七七年は西南戦争の年。映画は、このあたりを題材に展開される。

その秋月の乱の舞台秋月は福岡県甘木市の郊外、古処山の山懐に抱かれた小さな城下町である。鎌倉時代に原田種雄（たねかつ）が、幕府から秋月荘を賜り、秋月氏と称して古処山に山城を築いたのが始まり。その後、福岡黒田藩の支藩となり、幕末まで秋月黒田藩の城下町として栄えた。

秋月の乱は明治新政府に強い不満を持っていた秋月の士族約二百五十人が、熊本で起きた神風連の乱に呼応して、反政府の挙兵をしたものだ。が、秋月の乱は間もなく鎮圧され、士族たちは仕事を求めて秋月を去って行った。また、商人たちも秋月の店をたたんで他所に移り、「秋月千軒の賑わい」と言われた城下町秋月は、一九〇〇年代の初めには戸数、人口共に半減。城跡や武家屋敷の石垣だけが、往時を物語る、山間の静かな城下町に変わってしまった。

❶長屋門。秋月城裏手の通用門
❷秋月城跡のお堀と石垣。橋のようなものは「瓦坂」と言い、瓦を縦に並べて土の流れを防いでいる
❸黒門。鎌倉時代に古処山城の城門として造られ、江戸時代初めに秋月城の大手門として移築された
❹武家屋敷・久野邸。こうした茅葺きの武家屋敷が十軒ほど残る

筑前の小京都を散策する

秋月は甘木市街から北へ約七㌔。四方を筑紫山系に囲まれた小さな盆地で、その中央を東から西へ野鳥川が流れている。町並みに入る直前には、この野鳥川に架かる石造りのアーチ橋が見えてくる。

この橋は一八一〇年（文化七年）、秋月藩が長崎警護を務めていた縁で、長崎の眼鏡橋と同じ石工を招いて架橋された。当時は「長崎橋」と呼ばれていたが、いつのころからか目鏡橋の名で親しまれるようになったという。野鳥川の川床には石が敷かれ、小さな子どもたちが、母親に手を引かれながら、浅瀬で水遊びをする姿が見られた。

史跡などの見所が集中するのは、杉の馬場と呼ばれる通りになる。通りに入ってすぐ

1）

3）

4）

2）

右手には秋月美術館、その斜め前には秋月郷土館がある。その先には土産物屋や茶屋が軒を連ね、更に通りを真っ直ぐ進むと、秋月城跡のお堀と石垣が見えてくる。

　と、ここまで来て、ふと気付いたのだが、杉の馬場には杉がない。約五百メートルの通りは桜並木になっているのだ。通りの中ほどにある休み処、黒門茶屋まで戻って話を聞いてみた。

　ご主人のライオン吉田辰朗によると、確かに昔は杉並木で、両脇には武家屋敷が並ぶ登城道だった。また、この道で馬術の稽古もしていたため、杉の馬場の名がある。それが一九〇五年(明治三十八年)、日露戦争戦勝祝賀記念で、桜に植え替えられたのだという。この事業には批判も多く、当時の町長は、これで職を続けることが出来なくなったらしい。

　が、百年が経った現在、春には咲き乱れる三百本の桜がトンネルとなって、人気を呼んでいる。「今になってみると、桜でよかった」と話す人もいる。その一方、しっとりと落ち着いたたたずまいの秋月には、杉並木の方が似合う気もする。両方を味わうことが出来ないのが残念だ。

葛餅と草木染め

　秋月を歩いていると、あちこちで「葛」と「草木染め」の看板を目にする。秋月藩中興の名君と言われる八代藩主長舒(ながのぶ)は藩の殖産振興に力を入れ、和紙や木蝋、本葛、川茸(川のり)といった特産品を生んだ。

　特に本葛は奈良の吉野葛と並んで品質の良さで定評がある。廣久葛本舗は一八一九年(文政二年)の創業。山野に自生する寒根葛の根を水にさらし、その絞り汁から不純物を取り除いていくという昔ながらの製法を守り続けている。

　一方、秋月に何軒かある草木染めの工房は、いずれも比較的最近に出来たものだ。小森草木染工房の工房主は、もとは博多織職人だった小森久さん。自ら名付けた「本・草

1)

2)

3)

4)

❶❷甘木市無形文化財に指定されている小森草木染工房(TEL〇九四六・二五・〇〇〇一)では工房内とギャラリーの見学が可能
❸❹杉の馬場の中ほどにある黒門茶屋(TEL〇九四六・二五・〇四九二／写真はライオン吉田夫妻)では秋月の伝統の味・葛餅や、珍味・川茸料理などが味わえる。黒門茶屋が出来るまでは、秋月を訪れる人は少なく、店もなかった。親類や友人からは出店を反対されたが、茶屋を出して以降、徐々に訪れる人も増え、一九九八年に城下町全体が重要伝統的建造物群保存地区に選定されてからは多くの観光客を引きつけるようになったという

木染」には茜、藍、山桜など、約百六十種類の草木を使う。素材は初夏から秋にかけ、草木の葉が朝露を含んでみずみずしい早朝に採取するのだという。自然のやさしさが感じられる染織だ。

日本にただ一つの珍味・川茸

本葛と共に幕府への献上品になっていたものに、高級珍味・川茸がある。地球に初めて酸素をもたらしたと言われる原始藻類の一種で、学名はスイゼンジノリ。

甘木では約二百四十年前から生産が始まった天然の淡水のりで、キノコの傘に似ているため、地元では「川茸」と呼ばれてきた。豊富なミネラルやビタミンを含み、鉄分はホウレン草の十八倍、カルシウムは牛乳の十四倍だという。

昔は熊本県・水前寺や福岡県・久留米でもスイゼンジノリが採れたが、都市化や水質悪化により、今では甘木市金川町の清流黄金川が唯一の産地となっている。生の川茸は、鮮やかな翡翠(ひすい)色に輝き、涼味満点。春先が最盛期だそうだが、見た目は断然夏向き。また、ゼリーのような独特の食感も面白い。

❶川に水菖蒲を植え、それに引っかかる川茸を網ですくって採る ❷川茸の塩水漬け。よく水洗いして塩抜きする。吸い物や蒸し物に使ってもいいが、そのまま三杯酢で食べた方が独特の食感が引き立つ。川茸の元祖・遠藤金川堂(TEL〇九四六・二二・二七一五)は一七九三年(寛政五年)の創業

三十人近い会員増強に成功

甘木ライオンズクラブ(中西洋二会長/82人)は一九六一年三月十七日に、北九州ライオンズクラブのスポンサーで結成された。チャーター・メンバー二十七人でスタートし、ライオニズムの高揚と実践に努力を重ねながら、徐々に会員数を増やしてきた。ここ数年、全国的に会員数の減少が続く中、昨年度の甘木ライオンズクラブは何と三十人近い会員増強に成功。会員数は現在、八十二人となっており、今年度は中西会長を始め、森部晶伸幹事、興膳敏彦会計らを中心に、新しい会員の指導・育成に力を入れている。(鈴)

■甘木ライオンズクラブから読者プレゼントがあります(64ページ)。

イラストマップ/小川和政

「長崎くんち」長崎市

鮮やかに海外交流の歴史伝える諏訪社の祭り
長崎の秋はきらびやかに多彩に異国情緒あふれて

■文：篠崎淳之介／切画：風祭竜二

長崎くんちの「くんち」は「お九日」が語源で、元々は九月九日の重陽の日に行った祭りのことだった。全国に「お九日」の名の秋の収穫祭があり、九州では祭りを意味する名として知られ、唐津おくんちなども有名だ。

長崎くんちは長崎市民から「おすわさん」として親しまれている諏訪神社の秋の例祭。

長崎の原型となる町が造られたのは十六世紀後半、織田信長が勢いを増していたころのことで、諏訪神社はそれ以前からあった社だという。

その後、今から三百七十年前に「お九日」も始まった。初めは遊廓の女性たちの踊りが奉納されたそうだ。

十七世紀末から十八世紀にかけて、今の十人町一帯に中国人の町が造られてからは、祭りもその影響を受けるようになっていく。

祭りの日にちは、明治八年から太陽暦に改められ、十月七日からの三日間になった。

祭りは、七日午前七時、諏訪神社前踊り馬場での奉納踊りから始まる。各町内から出る傘鉾や川船、竜（じゃ）踊り、太鼓山のコッコデショ、鯨引きなどが奉納され、とにかく見どころが多い。

傘鉾は各町の町印で、直径一・五㍍ばかり。檜板の傘に、古代羅紗や緞子などの豪華な生地の垂れ幕を垂らし、傘の先にダシと呼ばれる飾りものを付けている。重さ百二十㌔から百五十㌔。これを、観衆の「マワーレ、マワーレ」の声援を受けて、一人でさばき、緩やかに回すと、澄んだ鈴の音が響く。力感あふれる妙技だ。

退場しようとすると、観衆から「モッテコーイ、モッテコーイ」とアンコールの声がかかる。

龍宮船や、御座船、南蛮船などを車につけた曳き物には少年が乗り、これも華麗に囃されながら、前進、後退、急速回転を繰り返す。ダイナミックな妙技に喝采していると鯨の曳き物が登場する。長さおよそ八㍍ほど、背中から勢いよく水を吹き上げると、これも喝采の嵐。

元外国人居留地だった東山手、南山手にある石畳のオランダ坂

担ぎ屋台に大布団をのせた布団山車のコッコデショが来る。山担ぎの男たちが「ホーランエ、ホーランエ、ヨイヤサノサ」と囃す。

観衆のアンコールを促す声も一段と高まる。

「所望！　モッテコーイ」。唐人服の蛇使いが登場して来る。蛇使いは十人。六尺棒で青い竜型を支えて、先頭に立った玉使いが操る金色の玉を竜が追い、ドラや蓮葉鉦、太鼓、ラッパなどの中国楽器が囃す。唐人屋敷直伝の舞だ。

近世のオランダ人に扮した人と髷姿の女性のからみで名高いオランダ万歳も、長崎ならではの出し物だ。

奉納踊りが終わると、三台の神輿がお旅所の長崎港脇の大波止に向かい、長坂と呼ばれる七十三段の石段を一気に駆け降りる。まさに渾身の力あふれる迫力が見物だ。

奉納踊りはこの後、公会堂前とお旅所前で奉納され、八日には神社前などの三カ所、九日には、お旅所と神社で繰り返され、長崎は奉納楽曲の「シャギリ」の音に染まる。

祭り三日目、長崎くんちは神輿が長坂を一気に駆け上がるダイナミックなシーンでフィナーレとなる。

祭りが終わると、海の色も深まり、南国長崎も秋の気配が色濃い。

●祭りメモ
毎年十月七～九日。お下りは七日午後一時から、お上りは九日午後一時から。問い合わせ先：長崎商工会議所（TEL〇九五・八二三・〇一一一）

●アクセス
諏訪神社、お旅所（大波止）などへはＪＲ長崎駅前から路面電車が便利。

●周辺クラブ
長崎市には一九五七年、福岡県・久留米ライオンズクラブのスポンサーで結成された長崎ライオンズクラブを始め、長崎みなと（六三年結成）、長崎中央（六四年結成）、長崎東（六五年結成）、長崎北（六七年結成）、長崎南（六九年結成）、長崎西（七五年結成）、長崎第一（八〇年結成）、長崎出島（八四年結成）、長崎平和（八六年結成）、長崎ベーシック（二〇〇一年）、長崎天領（〇二年）の十二クラブがある。二〇〇三～〇五年の大久保彦国際理事は長崎東ライオンズクラブ、今年度の馬場馨337・C地区ガバナーは長崎みなとライオンズクラブの出身。

表紙シリーズ 日本の風景

熊本県・阿蘇
阿蘇の壮大さを実感させる 大観峰のパノラマ

■写真と文：編集部

五月、高岳山麓の仙酔峡はミヤマキリシマが満開に

阿蘇外輪山の大観峰からの眺めは雄大だ。釈迦の涅槃像に例えられる阿蘇五岳が正面に見え、眼下には阿蘇谷が広がり、それを外輪山がぐるりと取り巻いている。外輪山には高原地帯が連なり、明るい緑の牧草地が波打つように起伏している。よく目鼻立ちのくっきりした顔を「日本人離れした」というが、阿蘇には「日本離れ」したスケールの大きさを感じた。

　阿蘇のカルデラは、四回にわたる大噴火によって生まれた。東西十八キロ、南北二十五キロと広大で、世界有数の規模といわれている。カルデラというと、摩周湖や十和田湖などの湖を思い浮かべる。阿蘇のカルデラも一時は湖になったが、外輪山の切れ目から排水されて湖水がなくなったのだそうだ。その後の火山活動で中央部に隆起したのが阿蘇五岳。標高千五百九十二メートルの高岳を最高峰に、根子岳、烏帽子岳、中岳、杵島岳と千三百メートルを超える山々が聳え、カルデラを北の阿蘇谷と南の南郷谷に二分している。

　そんなダイナミックな大地の躍動を、外輪山からの眺望に感じることが出来るのだ。

　阿蘇谷を見下ろす大観峰は、標高九百三十六メートルと外輪山の中で最も高く、阿蘇のビュー・ポイントとして名高い。もともと「遠見ケ鼻」と呼ばれていたが、その眺めに感動した徳富蘇峰が名付けた。ここは雲海を目当てに訪れる人も多い。阿蘇谷を埋めた白雲の上に阿蘇五岳が浮かび、幻想的な風景となる。寒暖の差が激しい春と秋、特に十月から十一月に見られることが多いという。

　八月下旬に阿蘇の北にある菊池渓谷の取材に訪れた時、明日は雲海が見られるかも、と教えられた。菊池渓谷と大観峰は、菊池・阿蘇スカイラインで結ばれている。翌朝、早起きして出かけることにした。

　大観峰に立つと、阿蘇谷にはうっすらと霧が立ちこめていた。しばらく待つうちに少し濃くはなったが、雲海というほどではない。山々が雲に浮かぶ様は見ることが出来なかったが、霧の下には田んぼや池、家々の屋根が輝くのが透けて見え、それもまた素晴らしい景色だった。（河）

●観光一口メモ

阿蘇五岳には今も噴煙を上げる中岳火口、草千里、ミヤマキリシマの群落が見事な仙酔峡など、見どころは豊富。大観峰のあるミルクロードからやまなみハイウエーへのルートは、眺めのよい高原地帯で最高のドライブ・コース。

●アクセス

熊本市内から大観峰へは約一時間。国道五七号線で大津まで行き、外輪山の上を走るミルクロードに入る。

●周辺クラブ

阿蘇外輪山の内側では、大観峰がある阿蘇町で阿蘇ライオンズクラブ、火振り神事が有名な阿蘇神社のある一の宮町で阿蘇一の宮ライオンズクラブ、阿蘇五岳南麓の高森町、長陽村、白水村、久木野村では高森ライオンズクラブが活動している。

獅子吼

題字／川原　孝徳（長崎県・佐世保ブルー）

●獅子吼（ししく）①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力にたとえていう語。②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

（応募要領→56ページ）

一通のメールから緊急支援「心を繋ぐタオルの輪」

橋本　維久夫（兵庫県・明石魚住）

七月十八日、ＮＰＯ大規模災害対策研究機構の伊永事務局長からメールが届いた。連休のため開封したのは二十日になってからだったが、以下のような内容だった。

「新潟県・福島県を襲った大雨洪水も警報解除となりましたが、これからの復旧作業が至難の業となります。過去の災害で培われた住民による共助と行政の役割だけでは追いつかないほどの惨状です。水害時に緊急で必要な物資の一つに、タオルがあります。ご支援ご提供とお声掛けをお願い申し上げます。次は福井県も心配になりました」

その直後にクラブ会長から「大変やな。何かせなあかんな」と電話が入った。この時点で既に福井も大水害に見舞われていた。他のボランティア団体のホームページを閲覧してみると、タオル募集はしているが、まだ現地にボランティア・センターが設置されていないため、受け入れ先が決まっていない状態だった。早速、新潟（333‐A地区）と福井（334‐D地区）に電話し、受け入れを依頼したところ、334‐D地区キャビネットの了解を頂き、新潟はＩＴ委員会関連で検討するとのことだった。

二十二日、六月に開いた「ＩＴフォーラム神戸大会」のご案内を差し上げたメール・リストがあったので、それを使ってタオルの緊急支援を呼び掛けたところ、五分もしない間に賛同のメールや電話が入った。その日のうちに、約三千枚のタオルが福井に送られた。

翌二十三日朝、新潟から「キャビネットの許可を頂き、受け入れ準備が出来た」と連絡が入った。早速、第二報を発信した。

呼び掛けメールに賛同頂いた方々がそれぞれの立場で奔走してくださった結果、地区、リジョン、ゾーン、クラブ、個人各単位でタオルだけでなく、緊急に必要なものが想像を絶する数量で、被災者の元に届けられた。

福井では、被災地内の今立ライオンズクラブ、鯖江ライオンズクラブが配送配布に携わってくださり、県社会福祉協議会と共に被災者の元へ駆けつけた。新潟では、物資を届けてくれた

クラブに、逐一お礼のメッセージと共に、配布の様子やボランティアとの交流などの画像をホームページに毎日掲載して、現地の様子を伝えてくれた。また、大量の物資が運び込まれるたび、一般ボランティアの多くからライオンズを称賛する声が聞かれた。実際、ライオンズを再認識してもらったと喜びの声がメールで届けられ、PRにもつながっている。

タオルの受け付けは八月三日をもって終了した。新潟には二百五十七カ所から十二万三千百五十六枚、福井には百九十カ所から九万四千五百三十八枚が集まった。

両地区に設置されていた各現地災害ボランティア・センターも八月九日をもってすべて閉鎖され、県・市・町の災害対策本部にその後の業務は移行されている。

現在、ライオンズにおいてもIT化の推進が行われ、運営の合理化に役立っており、また、全国三千四百余りのクラブがインターネットでつながり、ネットワークが構築されつつある。これが、大規模災害時の情報発信や緊急支援に役立つのではないかと考える。

災害時の緊急支援は二週間と言われている。そこに緊急に支援を待つ被災者がいる。「何か出来ないか」「何が出来るのか」と考えるのは、日ごろから「ライオンズは奉仕団体である。ウィ・サーブ」と吼えている者でなくても、人ならば当然のことであろう。

私が発信した呼び掛けメールに「即刻対応します」「了解」「気持ちのいい汗かきました」など多くの賛同・激励のメールを多数頂いているが、「ライオンズは組織だから組織を通じてやれ」などお叱りの声も頂戴した。

災害後は長期にわたる支援が必要となり義捐金が生かされてくる。我が地区でも八月二日のキャビネット会議で、新潟・福井両地区への義捐金拠出額が決定され、八月末までに地区に振り込むよう通達があった。

この間、受け入れ、配布をして頂いた334-D地区キャビネット、333-A地区IT委員会関連の方々には、連日大変な作業をしてい頂いたことに感謝とお詫びを申し上げると共に、両被災地区の一日も早い復興をお祈りする次第である。

（米穀店経営・54歳）

水害ボランティアを体験して

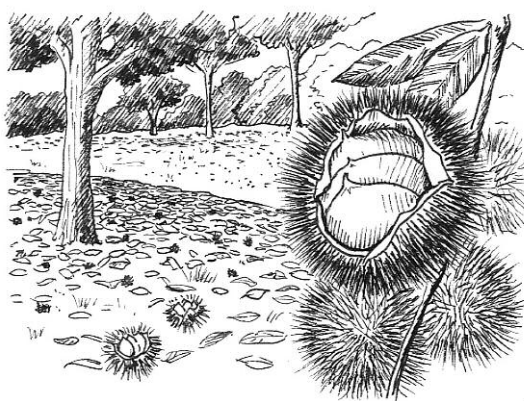
石平 悟郎（新潟八千代）

七月十三日、新潟県央を流れる五十嵐川と刈谷田川で堤防が決壊し、流域の三条市、中之島町などに、死者十五人、被災世帯一万四千百四十一の大きな被害をもたらしました。

災害発生直後、阪神・淡路大震災を経験した関西地区のクラブから「心を繋ぐタオルの輪」と題した一通のメールが全国に発信され、新潟、福井両県の被災地に「心のタオル」を送る活動が広まりました。私は近隣在住のライオンズ会員と共に、そのIT救援ボランティアに加わりました。この呼び掛けにより、新潟には約三百のクラブからダンボール七百五十余箱、十二万本を超えるタオルが寄せられました。当初は、せいぜい四、五十箱とタカをくくっていましたが、想像以上の量で「タオルの山」に迷い込んだかと思えるほどでした。

救援タオルは被害程度の大きい三条市と中之島町のボランティア・センターに運び込むことにしました。迅速に現地に配送することを心掛け、連日車を走らせました。センターに運び込んだ時、全国から集まったボランティアが炎天下の作業で疲れているにもかかわらず、横一列に並び手渡しで格納する姿に感動しました。この時期は、各地で高温記録を塗り替える異常な猛暑が続きました。「人のため、世のため」の本当の姿を拝見させて頂いた思いです。こうして運ばれたタオルが災害復旧に役立ち、喜ばれていることを思い、

暑さを忘れる一瞬を過ごすことが出来ました。

「心のタオル」は被災住民に大きな力を与え、復興に大きな力を与えたことは間違いありません。同時に、配送の回を重ねるごとに、ライオンズクラブへの評価も高まっていくのが分かりました。

今回の活動から、以下のような必要性を感じました。①救援は迅速に、復旧に必要なものを　②物資は機動性に配慮した大きさで、中身の表示を　③ボランティアを支援する活動も必要　④迅速に対応するために複合地区くらいの単位で物資のストック基地を設ける　⑤被災地近隣に所在するクラブが窓口になり体制整備とネットの整備

最後に、ご支援頂いた方々に暑くお礼を申し上げ、被災地の復興をお祈りします。ありがとうございました。

（地区ＩＴ特別委員・無職・72歳）

イラスト／小川和政

ガイドに教えられた英語

杉山　修（京都堀川）

第八十七回デトロイト／ウィンザー国際大会に妻と娘を伴って参加しました。大会前にカナディアン・ロッキーとコロンビア大氷河、ナイアガラを回るコースを選びました。カナディアン・ロッキーの壮大な景観には圧倒されましたが、山と氷河に関する素晴らしい知識で、実に丁寧に案内をしてくれた若い日本人女性ガイドさんが言った、観光案内以外のある話が何よりの土産になったような気がしますので、それを紹介します。

K子さんというまだ二十歳代のガイドさん

は、日本一雪の深い新潟県十日町の出身で、スキー好きが高じて、三年ほど前からカナダのバンフに住み、ガイドを職業としているとのことでした。

「皆さん、せっかく一万キロも離れた外国へ来たのですから、三つの英語だけ覚えて帰ってください」と、彼女は言いいます。何かいわれのある言葉かと待っていると、彼女が口にした言葉は、だれでも知っている「サンキュー」「エクスキューズ・ミー」「プリーズ」の三つでした。

こちらへ来た時、先輩ガイドから彼女自身も教わったことと前置きして、「サンキュー」の次に必ずジムとかローラとか相手の名前を付けること、それだけで相手の持つ親近感は倍以上になる、ということでした。私はハッとしました。夫婦間でも簡単に「ありがとう」と言うだけでなく、その後に相手の名前を付けたら、素晴らしい愛情表現になるだろうし、また友人同士でも、ますます友情が深まるだろうと感じました。これはライオンズの会員間でもぜひ実行してみたいと思いました。

次の「エクスキューズ・ミー」は、日本人は「アイム・ソーリー」と混同しがちです。「アイム・ソーリー」は、自分に責任がある場合の表現であり、アメリカは自己責任の国であることもあって、安易にこれを使うことは好ましくない、だから「エクスキューズ・ミー」を使うくせを付けた方が良いとのことでした。

三つめの「プリーズ」の話には、反省させられました。日本人は英語を単語だけで表現しがちで、それで通じると思っており、例えばレストランなどで飲み物を注文する場合も、「コーヒー」や「ビアー」など単語だけで済ませていますが、この後に必ず「プリーズ」を付けることが大事だとのことでした。単語だけだと、相手には命令調できつく聞こえるそうです。「プリーズ」と同義の日本語は何か私には分かりませんが、「どうぞ」といって相手を思いやる意味が込められていることは確かだと思います。そしてこのことも、インテリジェンスを重んずる私たちライオンズにとっては、心掛けるべき大事な教訓だと思いました。

今回で七度目の国際大会でしたが、天候に恵まれて雄大なカナディアン・ロッキーも見ることが出来ましたし、大自然にも触れ合えました。その上、素晴らしいガイドさんにも巡り合い、私には一生の記念になる有意義な国際大会参加旅行でした。

（元地区ガバナー・不動産鑑定士・71歳）

アフガニスタン訪問記

北村　昭子（東京太陽）

330－A地区は二〇〇三年度、LCIF交付金七万五千ドルを受けてアフガニスタンに学校二校を建設した。平和と復興への道を歩み始めて三年がたち、いまだ混乱が続くアフガニスタンへ、五月二十八日から六月四日までの八日間、中島洋吉地区ガバナー（当時）始め計六人で学校視察に訪れた。

首都カブールへは、北京とイスラマバードを経由して二日がかりの旅である。イスラマバードからカブールへは飛行機で五十分。空から見た国境は広大な砂漠の山並みが連なり、樹木は一本もない茶一色だった。

カブールは標高千八百メートルにあり、人口は推定二百万人。町は埃が舞い、ゴミだらけで、衛生面の悪さは一目瞭然だ。羊飼いが羊を追っていたり、ラクダのファミリーがいたり、とても町中とは思えない。日干しレンガと泥の家はまるで遺跡のようだ。あちこちに戦争の傷跡が残っているものの、前年に比べて八〇パーセントも復興しているという。舗装されていない道を車が土埃をもうもうと立てて走り、信

号もろくにない。宿泊したインターコンチネンタル・ホテルは、一年前には銃撃で壊されて泊まれなかったということだった。

アフガニスタン人の平均寿命は五十歳代で、子どもの三、四人に一人は五歳までしか生きられず、母親も早死にする場合が多いという。町を行く成人女性たちはブルカで顔を隠し、肌は見せない。しかしタリバンによって虐げられた女性たちも、今は変わりつつある。カブール高等教育大学では学生五千人のうち六〇パーセントを女性が占める。訪問したのは日曜日だったが、大勢の学生たちがいた。学費は無料で、学びたい者はだれもが学べるようなシステムになっている。教育者を育てるためだ。

330-A地区の建設したカブール教育大付属中学校は大学の敷地内にあり、鉄筋コンクリート二階建てで、一階には障害者用の教室がある。地域のモデル・スクールになると期待されている。白亜の校舎は大方が完成し、後は赤瓦の屋根を葺くだけで、六月中に竣工するとのことだった。

視察後、今回の事業でお世話になったサダク博士と、現地の婦人二人を交えて会合を持った。一人は九月の国会議員選挙の立候補者、もう一人は女性運動家で、いずれも女性の地位向上のために立ち上がった素晴らしい女性たちだ。彼女たちからは女子校がほしいという要望を聞かされた。ぜひ応援したいと思っている。二人に、ブルカを取り払うことは出来ないのか、男性が四人も妻を持つことをどう思うか質問してみた。この話題はとても盛り上がったが、イスラムの教えは絶対なので自然消滅を願うしかない、という答え。この教えのためか、アフガニスタンでは犯罪が少ないということだった。

今回建設したもう一つの学校は、カブールから車で約三時間の村、セヤペタベにある。道のりは聞きしに勝る難路だったが、子どもたち三百人が日の丸と「ウェルカム・ライオンズ」の旗で迎えてくれ、とても感激した。二千五百メートルの高地にあるセヤペタベは、緑も見られ、のどかな風景が広がっている。近くには小川もあったようだ。

セヤペタベ小学校は村を見渡す山の中腹に建つ。石造りの十の教室からなり、まだ六〇パーセントの出来だったが、完成の暁には石城のようになるはずだ。この学校が子どもたちの誇りになることを願っている。

カブールに戻り翌日行われた教育大付属中学校のセレモニーには、駒野特命全権大使が出席され、NHKによる取材もあった。

最終日はカブールのバザールへ行った。八百年前から変わらぬ姿で残っているという。迷路のような細い路地の両側に鳥屋がひしめき、数万羽の鳥が売られている。私たちを見ると、「ジャパニーズ、ジャパニーズ」と皆ニコニコしていた。カブールの町には「From the People of Japan（日本の人々から）」の文字と日の丸のついたきれいな大型バス三百台が人々の足となっていた。日の丸マークのついたバス停も各所にあった。この国の人々は日本のことを、経済大国、援助国、友好国と考えており、親日的だ。資源が乏しく、水も電気もないこの国に、これからも援助が出来ることを願いつつ帰国した。

（手作りガラス・ギャラリー・76歳）

中級編

ライオンズ・スクール

クラブ運営の基礎知識

第４章　例会

■後藤隆一（元地区ガバナー）

例会とは?

「例会とはなんぞや」との問いに対し、経験豊富なクラブ役員としては、どのような説明をするであろうか。「クラブの最高議決機関である」とはよく聞く回答である。

『ライオンズ必携』に、クラブのすべての企画及び施策はクラブの会合にて承認される意の記載があるので、この定義に間違いはない。

また、ある先達メンバーの言によると、「例の場所で例の時間に例のごとく、同志が楽しく会合するのが例会である」とのこと。確かに例会は、仲間が集い、親交を深める場でもあるので、これも間違ってはいないようである。

ライオンズクラブ国際協会は、その構成単位である個々のクラブを会員として成り立っている。世界中で奉仕活動にまい進するおよそ四万六千のクラブは、それぞれに自ら決定した日時場所において、毎月例会を開催している。

例会とはクラブの定例会議であり、開催回数に定めはないが、標準版クラブ付則によれば、少なくとも月二回は例会を開くよう推奨されている。議長は、クラブにおけるすべての会合の主宰者たる、クラブ会長である。このことはつまり、例会の進行役はクラブ会長であるべきということにもなる。他国のライオンズクラブの例会に出席したことのあるメンバーは、実際にクラブ会長がゴングを上手に使いながら、最初から最後まで例会を進行させている例を多く目にしている。

定例会議であると同時に、例会は同志が集う大切な交流の場でもある。同じ組織に属する仲間が親睦の時を過ごし、相互理解を深めることは重要である。ある元地区ガバナーの言葉、「兄弟だって月二回も食事を共にする機会は持てないのに、ライオンズの仲間とは例会で毎月それが出来る。本当にありがたいことだし、大切にしたいものだ」。

ライオンズクラブに入会し、ほかでは得られない知己の広がりを体感し、自身がライオンズに育てられていることに感謝しているメンバーは多数存在する。もちろん、共にアクティビティに汗するなど、広範なライオンズ活動に参加する中で更に結束も強まるわけだが、それらすべての始まりは例会にある。

多くのメンバーにとって、例会に出席することがライオンズ活動の原点であり、その存在は、我らライオンズの根幹を成すものである。ライオンズにおいては、例会からすべての活動が始まるということになる。

例会運営の立役者たち

例会を運営する立場にあるクラブ役員は、例会の重要性をしっかりと認識し、マンネリ化に陥らぬよう常に注意を払い、毎例会を会員全員にとって有意義なものとすべく、努力しなければならない。

例会プログラムの企画立案はクラブの計画委員会が担う。会長始め執行部により提示された年間の例会開催予定や、そのスタイルの骨組みを基に、計画委員会は毎回の例会を組み立てなければならない。楽しい有意義な例会には、周到な準備が必要である。ライオン・テーマーやテール・ツイスターの活躍も、洗練された例会運営には欠かせない。

例会の進行は、冒頭に記したように、本来は会長が行うべきものであり、少なくとも時々は実現してほしいものであるが、多くのクラブでは

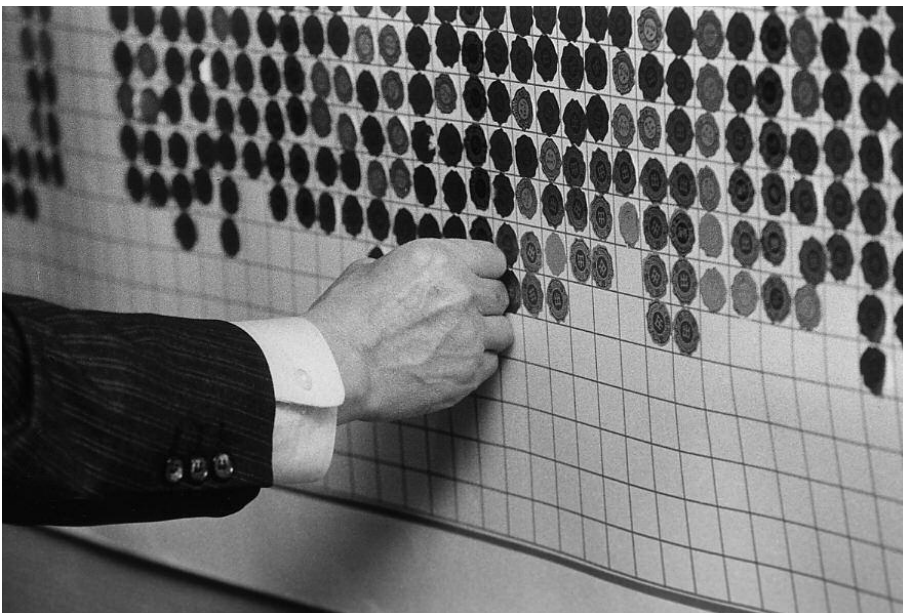
司会者が別に指定されているのも現実である。この場合ももちろん、司会者は事前の準備を怠らず、進行に際しては細心の注意を払う必要がある。

　ほかにも、例会で活躍すべき委員会がある。ライオンズ情報委員会は、会員にあまり知られていないライオニズムの情報を周知させる場として、例会を活用し、会員の意識の向上に努めるべきである。地区や複合地区の状況、ライオンズ用語の説明など資源となる事項は限りなくあり、会員は情報を得ることを必ずや歓迎する。例えば『ライオン誌』日本語版は、常に貴重な情報源となり、記事の一部でも例会で取り上げることにより、公式機関誌に対する認識を深めることにもなる。

　国際大会やOSEALフォーラム前であれば、大会委員会の出番である。各種大会の意義や目的を説明し、その内容を会員が理解することは、国際協会の一員としてのおのおのの意識を高め、参加促進の効果も期待出来る。

　また、メンバーズ・スピーチなどにより一般のメンバーの出番を作ることも、参加意義を高める効果がある。スピーチに限らず、一般メンバーが発言する機会を持てるように工夫することは大切である。

　多くのメンバーがその弊害に気付いていながら、なかなか改善されないものに、固定化された席次が挙げられる。いつも同じメンバーが同じ位置に着席していないだろうか。そしてそのことを疑問とする声が、かき消されていないだろうか。席の配置には変化を持たせるべきである。

　委員会ごとの配置でも良いし、アイウエオ順や年齢順、多少乱暴かもしれないが、それこそ背の順でも構わないのではないだろうか。毎例会である必要はないが、ある程度の頻度で変更してみてはいかがであろう。この任に当たるのはライオン・テーマーとも考えられるが、会長のリーダーシップが発揮されるべきケースがあるかもしれない。要は、だれかが勇気を持って実践し、皆で改善の意識を持たなければ変わらないものである。

テール・ツイスターの活躍

　さて、ほとんどのクラブでは例会時に食事を共にしていることであろう。例会は単なる食事会ではないので、会食をどのように組み込むかについても、ある程度の注意が必要である。

　例会を、定時開始の会議のみにして、終了後に会食時間をとり自由解散、ということも考えられる。逆に例会開始時刻前に、自由会食時間を設けているクラブもある。開会ゴングの後に審議事項をすべてきちんとこなし、その後会食に移りテール・ツイスターが盛り上げる形式もあり得る。

　例会を楽しく有意義にする方法というは、多くのクラブにとって非常に関心の高いテーマだろう。そして、その中心にはテール・ツイスターがいる。

　テール・ツイスターは直訳すると「尻尾をひねる者」となる。しかし、役職として「尻尾をひねる者」では、やはりさまにならない。日本にライオンズクラブが導入された時、英語のままの役職にされたのは賢明であったと思う。とは言え、新会員にとって、どんな役職なのか最も分かりづらい役職は、このテール・ツイス

ターだろう。

『ライオンズ必携』によると、「(テール・ツイスターは）例会やその他の会合で種々のアイデアによって会合を盛り上げ、会員間の親睦を図るのがその任務である」としている。また会則（標準版クラブ付則）では、「テール・ツイスターは適切な余興やゲームを行い、会員にファインを上手に課すことによって会合の調和、友好、活気を促進する」とある。すなわち、テール・ツイスターの目的は会合の演出にある。

しかし、時が経るに従い、そうした本来の目的からはずれ、最近ではファインやドネーションなど、例会でお金を集めることだけがテール・ツイスターの役目のように考える傾向があるように思う。また、テール・ツイスターの時間というものを設けているクラブも多い。しかし、テール・ツイスターの職務は「会合の調和、友好、活気を促進するため」にあるわけだから、特別な時間帯を設けず、開会から閉会までを担当するのが本来だろう。

新しくテール・ツイスターに就任した会員からは、「具体的には、どんな時にファインやドネーションを徴収出来るのか」という質問がよく出るようだ。

が、クラブには伝統的なやり方もあるだろうし、テール・ツイスターの個性によっても違いが出てくるだろう。一概にこういうものだとは言えず、どのクラブにも、またどんな人にも当てはまるテール・ツイスターの極意などないに等しい。むしろ、定式化したものを廃して独自なものを開発することが、テール・ツイスターの最大の課題だと言えるのではないだろうか。

現在、テール・ツイスターを置く置かないは、各クラブの自由となっている。設置が選択性となった背景には、外国の一部においてテール・ツイスターが集金マシン化したことに対する批判があり、いわば後ろ向きの規則改正であった。

本来の目的の通りに活躍の場が与えられるのであれば、たいへん存在価値の高い役職であり、日本の場合は、ほとんどのクラブでテール・ツイスターが活躍している。各クラブの工夫により、テール・ツイスターが幅広く活動し、楽しく活気あふれる例会が実現することに期待したい。

いずれにしても、会食をしながら漫然と会議を進めるという形は避けた方が賢明である。参考までに、最近結成されたクラブの中には、経費削減の意味合いも含め、食事時刻を避けて例会を開催し、例会の後に自由参加の茶話会を行うというクラブもあり、この面でも、多様化が進んでいる。

ゲストの参加

例会にゲストを招き、通常と違う形式で会合することも、雰囲気を変え、話題を増やし、新鮮な時を過ごすことにつながる。

さまざまな分野の専門家に講話を依頼し、質疑応答や懇談を行うことにより、充実感を高めているクラブも多い。音楽や工芸など、芸能分野で秀でた方々を招いて、楽しくかつ教養豊かな例会を開催している例もある。

これらお客様の出席を仰ぐ際にも、思い付きだけで実施することなく、例会全体の構成を慎重に検討し、十分な準備が必要であることは言うまでもない。

クラブが行うアクティビティに関連したゲストの出席も、会員の共感を得る可能性が高い。手を差し伸べさせて頂いた方々と、共に会して語り合うことは、クラブとしての反省の場ともなり、将来への展望を描く機会となり得る。

また、アクティビティに際して地域住民や地元関連団体などの協力があった場合は、それらの方々を例会に招くことも大切である。地域の奉仕の輪が広がると同時に、ライオンズクラブに対する知識や認識が広がることにもなる。

メーク・アップの意義

ところで、例会の種類を表す言葉にも、いささかの注意が必要である。合同例会や移動例会、中には振替例会などという呼称が聞こえてくることがある。

クラブごとに、あるいはリジョンや地区の慣習としての呼び方があることは致し方ないが、本来の例会のあり方から外れることなく運営されていることの確認が必要である。また、例会の場所や時間等に変更がある場合は、キャビネットやリジョン・チェアパーソン等に、事前の届出が必要となる。

規則上は、例会以外に特別会合の存在があるが、通常、すべてのクラブが各年度中に開催すべき会合としては、年次会合とチャーター記念会がある。これら会合の位置付けについては周知のことであろうが、会員が自らのクラブの現況を正確に理解し、クラブの歴史と伝統に思いを馳せる機会として大事にしたい。

例会出席が会員の義務であることは、会員であればだれでも、入会前から聞かされていることである。と同時に、メーク・アップという言葉もライオンズ独特の用語として会員に浸透している。その意味と規則についても、『ライオンズ必携』その他に詳しく記載されている。

メーク・アップに関して大事なことは、規則の解釈のみではなく、クラブ内における認識の確認と共有であろう。

最近では、新世紀ライオンズクラブにおいて、インターネット上でクラブ例会を開催するという可能性もあり、それなら他のクラブに属する会員がメーク・アップをネット上だけで出来るのだろうかなどという質問が出ることもある。個々のクラブにおいて、決め事をしっかりと確認すべきである。

メーク・アップそのものを形骸化させることは、ルール軽視という弊害を生み出すだけでなく、結局は出席率を悪化させることにもつながり危険である。

余談だが、筆者の所属クラブでは結成から十五年間ほど、極めて出席率の高い例会を開催していた。会員数六十数人のクラブで、例会欠席は多くても二〜三人。当時の言葉で言う純出席率は常に九五パーセント以上を維持し、年間に何度となく、全員が顔を合わせる一〇〇パーセント例会を実現していた。当時のクラブ内規は、メーク・アップについて「他クラブの例会または特別会合への出席以外は認めない」というものであり、会員からは「休むとメーク・アップが大変だから」等の声も聞こえた。

しかし、振り返るに、出席率の高さは厳しい規則による欠席抑止の影響によるものではなく、例会出席をまさに当然の義務と全員が理解し、出席して当たり前という共通認識の結果であったように感じる。大人の組織を規則によって縛ることは難しい。やはり、会員が嬉々として毎回例会に出席出来るよう、企画と運営に工夫を凝らし、良い雰囲気作りに皆で協力することが大切である。

ちなみに、我がホームクラブは来期中に結成三十周年を迎えるが、最近の出席率は八〇パーセント程度と低迷中であり、メンバー全員が本稿を読んでいてくれれば改善間違いなしかと、密かに期待しているところでもある。

日本ライオンズの歴史も五十年を超えた。おのおののクラブが長い歴史を重ねる中で、例会の運営については、折々の機会に会員全員の意見を聞き、環境の変化に耐える選択も必要となろう。伝統とマンネリの境を見極め、年齢やライオン歴の多様化を考慮し、有意義な会合の実現のために、すべての会員が納得する道を見つけていかなくてはならない。

後藤隆一（千葉県・柏中央）
一九四九年生まれ。八〇年柏中央ライオンズクラブ入会。八六年度クラブ会長。八八〜九一年333複合地区YE委員長。九三年度ゾーン・チェアパーソン。九四年度リジョン・チェアパーソン。〇一年度333・C地区ガバナー。〇三年度エリア・インパクト・チーム副リーダー。MJF。55歳。

俳壇

■選者　森　澄雄

【特選】

象潟の雨を偲ばんねむの花　（山形県・天童）会田　栄治

（評）秋田県南西部日本海に面する象潟は文化元年（一八〇四年）の大地震で二・四メートル隆起して陸地となり、開田事業が進められた。芭蕉は『おくのほそ道』に「象潟や雨に西施がねぶの花」と詠んでいる。その芭蕉の象潟の雨にねむの花を偲んでいる。

夏空へ弥彦杉並林立す　（岐阜県・大垣東）大橋庄一郎

（評）弥彦神社は弥彦山（標高六三八メートル）の東麓にある越後一の宮。祭神は越後開拓の祖神とされる天香山命（あめのかぐやまのみこと）。開基年は不詳だが、『延喜式』には越後五十四社唯一の名神大社となっている古社。弥彦神仰は奈良時代からで『万葉集』にも「伊夜彦おのれ神さび青雲の棚引く日すら小雨そほ降る」と歌われている。朱の大鳥居が名高い。杉並木が夏空へ向かって林立している。弥彦山も神社の御身体として崇拝されている。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

緑風や友と語りの膳囲む　（神奈川県・小田原白梅）田代　梅子

終戦日兄の童顔飾りけり　（新潟県・柏崎）高橋　満

喜雨しとどしばし濡るるを立ちてをり　（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄

水打って門ののれんに風を呼ぶ　（千葉県・大栄）野平婦基子

月見草開く夕暮田子の浦　（愛知県・西尾）牧　孝

西日濃き京の老舗の軒簾　（兵庫県・神戸シニア）中村麦芽子

揃ひ吹く法螺の音もて山開き　（大阪東部）植田　尚江

濯ぎたるシャツはためきてキャンプの夜　（大阪夕陽丘）北川　匡子

海猫鳴いて小樽運河の水匂ふ　（大阪夕陽丘）田中　一栄

雲ゆきて雪渓指呼に奥穂高　（大阪府・堺浜寺）宮部　嘉博

祇園囃子高まり鉾の近づき来　（大阪府・堺浜寺）村上　静子

蜩に明け暮れ恙なきたつき　（和歌山県・伊都高野山）慈幸　洋藏

天守なき篠山城趾蔦茂る　（京都洛陽）澤村　越石

新涼の鞍馬詣や九十九折　（奈良）小林　成子

死と飢餓に対峙せし日々終戦日　（香川県・長尾）鶴居　健

歌壇

■選者　春日真木子

【特選】

ライオンヘアの総理を見んと選挙カー囲む群衆何に国旗（はた）振る

（青森県・弘前）岩間　甫

（評）先ごろ行われた参院選の一風景であろう。「ライオンヘアの総理を見んと」、この「見んと」で、ライオンヘアが効いてくる。聴くのではない。一目見ようと選挙カーを群衆は囲んでいる。その群衆の振る日の丸の旗は、一体何に賛同し、何を応援しているのであろうか――。選挙にありがちな様子を、対象と距離をとって、批判をこめ、皮肉な眼で見ている。時事詠とは、情報の報告に陥りがちであるが、このように自己の態度を示す一首でありたい。

今号は、荻野、乾氏の作品にも注目した。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

海の家並ぶ浜辺は台風の吹き荒れ忽ちゴーストタウンに

（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄

海ひかる岩場に拾ふ石ひとつ縞目に刻む北の陰影

（千葉県・館山中央）荻野　貴子

バスタオル蓑虫の如く巻きつけて孫は午睡すプールのあとに

（神奈川県・小田原）清水　幾代

蟷螂は鎌を振り上げ見えを切るコンチキチと囃子に乗りて

（愛知県・西尾東）坂部喜三江

アルバムを開けば鳩に囲まれてサンマルコ広場に我は小さし

（石川県・羽咋）竹津　弘子

兼六園ライトアップは夕闇の緑抜きたり池の面（おも）映ゆ

（福井県・武生）岩倉　忠

硯箱を洗いて心新たにし入賞せんと墨すりはじむ

（兵庫県・山崎）竹田　長司

茎の色見つつ花色教えくれし亡き母偲び菊の苗選る

（和歌山県・岩出）明治むつみ

両側にナトリウム灯点りたり隧道の出口小さく見え来る

（徳島県・鴨島）乾　忠義

老いたれば些細なことで腹の立つ友の言葉に少し間を置く

（高知県・土佐香南）野村土佐夫

柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

公園の蜂に追われて奉仕終え　（新潟県・五泉）佐藤　隆吾

（評）この句にお目にかかって、これまでにライオンズクラブの奉仕活動を素材にされた作品が、意外に少ないことに気がつきました。公園の除草でしょうか、清掃でしょうか、思わぬ蜂の逆襲に遭って、今日はとりあえずこのへんで、ということなのでしょう。いずれ近い日、今度は完全武装で巣から根こそぎ退治なさるのでしょう。ご苦労さまでございます。

自叙伝のここはモザイクかけておく　（福井県・敦賀みなと）田中　信幸

（評）「モザイク」を巧みに取り入れられた佳吟です。まえがきやあとがきに「ざっくばらんに書いたつもりである」などとしたためられた自分史を、よく拝見しますが、そこは他人様の目に触れるもの。あからさまにとは言っても、真意や真相や実態は一〇〇パーセントさらけ出せるものではありませんね。しかしそのモザイク部分も読む人が読めば瞭然。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

千人の味方は要らぬ妻が居る　（青森県・五所川原）坂本　憲昭

談合と思う一斉休刊日　（青森県・弘前中央）高橋　岳水

脅かすな来年もっと暑いとか　（岩手県・水沢中央）平澤　真樹

あやとりに向き合う視線からめさせ　（岩手県・水沢中央）石川　涼呼

夏やせよそのままでいて戻らずに　（岩手県・水沢中央）山下　知彦

昼寝覚見ていたように電話鳴り　（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄

新聞のお詫び広告字が微小　（千葉県・船橋シニア）小嶋　廣次

交番が頼りに出来ぬ国となり　（千葉県・船橋シニア）灘山　徳治

窓際に席を設けて組織替え　（埼玉県・浦和シニア）君塚　六郎

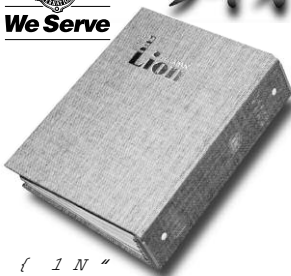
迷信と知りつつ祖母の話聞く　（静岡県・大仁）山本　順平

ねじ一つ失くしただけで大惨事　（大阪カトレア）榎本　洋子

喫煙所ここは安全地帯だよ　（広島県・因島）村上　祐司

充電と言ってはいるが無職です　（島根県・松江湖城）長谷川　孝

詰め腹をすべった口に切らされる　（宮崎橋）甲斐　忠視

人類の驕りを天災に衝かれ　（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

伝言板

■三時間チャレンジ・チャリティー・ウォーキングのご案内

十月十一日、大分県別府市の別府中央公園で、別府中央ライオンズクラブ主催の「2004 三時間チャレンジ・チャリティー・ウォーキング」が開催されます。ライオンズクラブのPR、献眼・献腎・献血運動への理解と啓蒙、そして地域社会の人々と一つになって社会奉仕を行うことが目的です。詳細は、新森内科医院内・グリーンウォーク大会事務局までお問い合わせください。TEL：〇九七七・二五・五二六一 FAX：〇九七七・二一・二一四九 URL：www.coara.or.jp/~konniti/lions/

■「合同句集 蕉蕪」を十人に贈呈

大阪夕陽丘ライオンズクラブ同好会俳句部から、クラブ会員刊行物で紹介している同句集が先着十人の読者に贈呈されます。お申し込みはライオン誌日本語版事務所まで（あて先は下記「投稿要領」参照）。

➔ライオン誌事務所来訪者芳名録

71 東京紀尾井町 千々木久人

クラブ会員刊行物

●合同句集 蕉蕪

著者／大阪夕陽丘ライオンズクラブ同好会俳句部）発行／大阪夕陽丘ライオンズクラブ（TEL〇六・六七七二・四六七四）

＊クラブ結成と同年に誕生した俳句部。チャーター・ナイト三十周年を記念して合同句集を編集・刊行。句友の集積された作品の中から、各自六十句を自選。

B6判 本文247ページ
非売品

訂正とお詫び

本誌九月号「二〇〇四・〇五年度国際役員」（12ページ）でライオンアショク・メータの役職は第一副会長の、「伝言板／QSOパーティー開催」（57ページ）でホストクラブの群馬県・高崎ニューセンチュリー・ライオンズクラブのファクス番号は〇二七・三二七・〇八九二の誤りでした。お詫びして訂正致します。

ライオン誌投稿要領

カラー

■「MY BEST SHOT」60～61ページ
●応募資格：会員（ライオン、ライオネス、レオ）及びその家族でアマチュア。
●応募作品（題材は自由）サービス判以上四ツ切までのプリント及び35ミリ以上のスライド。一人5点まで。
●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、撮影年月日、住所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■「ライオンズ・ギャラリー」62ページ
●会員及びその家族。プロ、アマ不問。
●応募作品：絵画、版画／題材は自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（キャビネ判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、絵のサイズ（号数）、画題を明記し、絵に関するエッセー、自評など（400字程度）、顔写真を添付。

■「サービス・アクティビティ」34～35ページ
●ライオンズ、ライオネス、レオクラブ。
●写真は動きのあるもの、内容が一目で分かるもの。クラブ名、活動日、場所、キャプション（100文字程度）を付記。
●Eメールでの投稿は、画像サイズ：長辺が1,600ピクセル程度／画像形式：JPEGの最高画質(低圧縮)／ファイル名：ライオン誌用5桁のクラブコード＋写真の通し番号（例：01001-01.jpg）／メール件名：サービス・アクティビティ投稿／メール1通につき写真添付は3点まで。

本文

■「クラブ・リポート」22～26ページ
●ライオンズ、ライオネス、レオクラブ。
●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。新聞記事は新聞名、掲載日を付記。関連写真があれば添付（返却希望の場合はその旨を明記）。

■「獅子吼」43～47ページ
●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1600字程度。職種、年齢を明記。
●題字はハガキ程度の大きさ。

■「俳壇」「歌壇」「柳壇」53～55ページ
●会員びその家族。
●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■「リーダース・プラザ」56～57ページ
●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。
●伝言板：読者間の情報交換に。
●読者から：本誌への意見、感想など。

▼締切の記入のないコラムは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合あり。原則として原稿返却はなし。
▼住所、氏名、クラブ名を明記。文字原稿及びサービス・アクティビティはEメール投稿も可。

送り先：〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所 各コラムあて
TEL03-3542-9571 FAX03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。　編集部

役立つ「ライオンズ・スクール」

●『ライオン誌』をいつも楽しみに拝読させて頂いています。「ライオンズ・スクール」はたいへん役に立っています。新会員から「そこは変だよ」とか、質問があった場合など私はこれをファクスしたり、本誌を持って行って一杯飲みながらライオンズを語ることが度々あります。二十五年のライオン暦ですが、やはりこのような教科書のようなものがあれば説得力があります。六十六歳のベテラン組ですから、事務局やいろんな委員などから質問がある度に使わせて頂いています。中級編を執筆なさっているライオン高橋義太郎は五十二歳とお若いのに素晴らしいリーダーです。私も次年度は地区委員長とクラブ幹事（二回目）を兼任するかもしれません。今後も『ライオン誌』を活用させて頂くつもりです。頑張ってください。

愛知県・豊明●石川昭徳

国際大会追体験

●八月号「THEME／デトロイト／ウィンザー国際大会」を拝見しました。写真や記事を見た時、私も参加した一昨年度の大阪大会がなつかしく思い出されました。海外での大会にはなかなか参加出来ないので、記事を楽しませて頂きました。もっと写真があってもよかったと思います。

山形県・鶴岡●成沢正一

（編）本誌ではページの制限もあり、十分な写真が掲載出来ず申し訳ありません。国際協会公式ウェブサイト内の「ライオン誌フォト・ライブラリー」（www.lionsclubs.org/JA/content/news_mag_library.html）では、約三百枚のデトロイト大会の写真を閲覧、ダウンロード出来ますのでぜひご活用ください。

心を一つに

●亀井良次国際理事については、岸和田中央ライオンズクラブでのご活躍も、近く見聞きさせて頂いております。我が岸和田コスモス・ライオンズクラブの例会にも気安くご出席くださり、分かりやすくいろいろなお話をして頂いてありがたく思っております。八月号「国際理事会だより」を拝読しました。今年度、日本初の女性ガバナー、櫻井慧子330‐C地区ガバナーが誕生されたこと、同じ女性として嬉しく、素晴らしいことと存じます。「皆が心を一つにして力を合わせることで二倍三倍の威力を発揮する」という亀井理事の言葉、本当に大切なことと思います。

大阪府・岸和田コスモス●八田章子

台湾のライオンから

●九月号67ページの麻薬・覚せい剤乱用防止センターの広告を拝見し、330～337複合地区とセンターが共同で薬物乱用防止教育における画期的なアクティビティを推進しておられることを知りました。私も二十年前に300‐A2地区が出来て以来、絶えず薬物乱用防止教育の推進を叫んで参りました。国際情勢の変化と、自由主義に甘やかされてきた青少年、そして悪徳商人の激動により、現在はマイナス方向に傾斜していることを痛感する次第です。貴国における活動を参考に、有益な社会奉仕を行いたいと考えております。

台湾●陳冰榮

気になる会員数

●私は西宮甲子園ライオンズクラブに入会してはや二十五年になりますが、我がクラブのネックは何と言っても新会員の増強です。現在会員数は五十人というところ。これを下回らないように、会員一丸となって日々がんばっています。『ライオン誌』の日本ライオンズ分布図を毎月見て、一喜一憂しております。これからもいい記事をたくさん載せてください。

兵庫県・西宮甲子園●浜野圭市

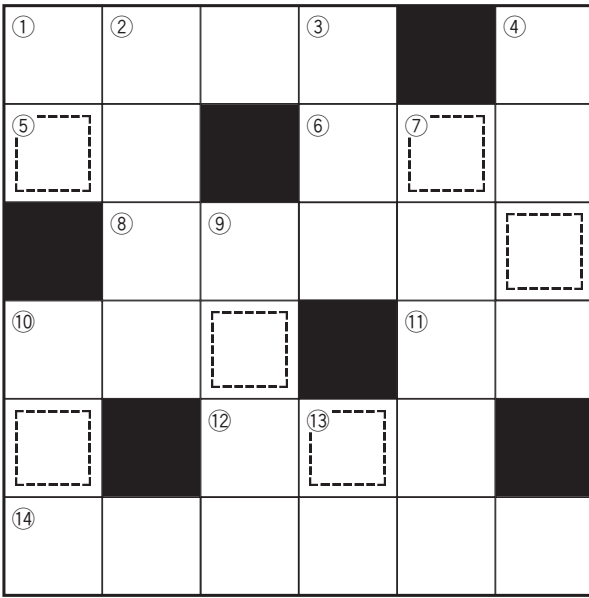
私もこの目で見てみたい

●「ライオンズ・ギャラリー」を楽しみにしています。八月号に掲載されたライオン谷口和男（岐阜伊奈波ライオンズクラブ）の作品、「グランド・キャニオン」。実際にそのものを目にするごとくの見事な出来映えだと思います。きっととても楽しい旅だったのだろうと想像致しました。

北海道・室蘭北斗●高橋定良

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べかえてください。正解者の中から十人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は65ﾍﾟｰｼﾞ）。締切は十月二十日。

①	②		③	■	④
⑤ [ ]		■	⑥	⑦ [ ]	
■	⑧	⑨			[ ]
⑩		[ ]	■	⑪	
[ ]	■	⑫	⑬ [ ]		■
⑭					

解答 □□□□□□

ヒント：THEMEで取り上げた自尊心を育む上で必要な能力。

↓タテのカギ

☒広島県西部の旧国名。

☒植樹で緑を多くすること。

☒ライオンズクラブには大勢いるはず。

☒世界三大宗教の一つ。

☒つい中を見たくなる。

☒思いがけない不幸な出来事。

☒相撲で、その日最後の試合は「〇〇〇の一番」。

☒送りがな、ふりがな。

←ヨコのカギ

☒四方を観客席が取り囲む、スポーツ施設。

☒役に立つこと。

☒ワイシャツの袖口の折り返し。またはこを留めるボタン。

☒夏目漱石の小説。一人の画家の非人情を描く。

☒「側」「風」「合わせ」。

☒読み出し専用記憶装置。書き換える必要のないデータを保存。

☒ラーメンの具の定番。

☒容姿端麗のカップル。

■前回の答え

テ	ホ	ド	キ	■	リ
ニ	ク	■	イ	ミ	ン
ス	オ	ウ	■	ジ	ゴ
コ	ウ	シ	エ	ン	■
ー	■	カ	イ	コ	ク
ト	ビ	イ	リ	■	サ

答えは「コクサイリジ」

心の伝わる話し方

◆第4回

イラスト／吉田悦子

「聞き手の立場になって」

■松村尚子（大阪府・堺エンゼル・ライオンズクラブ）

昨年一月に誕生した堺エンゼル・ライオンズクラブの初代会長として、式典や例会を始めさまざまな場面で、自らの方針や考えをお話しする機会がありました。「一緒にいいクラブを作っていきたい」という思いを伝え、会員の皆さんの理解を得られるよう努めたつもりです。

自らの考えを的確に伝えるためには、何を心がければよいでしょうか？　あらかじめ話したい内容を絞って、聞き手に分かりやすいような構成にすることが大切です。次のような要領で、準備しておきましょう。

一、伝えたいことを取り出す

まずは話したい内容を箇条書きにしてみます。それを項目に分けて重点を絞り、優先順位を決めます。あまり欲張って項目を多くし過ぎると、何を言いたいのか聞き手が分からなくなるので気をつけましょう。

二、分かりやすく組み立てる

全体（結論）→部分（ポイント）→まとめ、の順番に話を構成します。

「全体」は雑誌や新聞などで言えば、見出しにあたる部分です。出来るだけ短くしましょう。そうすることで聞き手は、話し手が何を伝えたいのかを知り、話を受け入れるための輪郭が出来るのです。

次に「部分」ですが、項目に分けた内容を、聞き手が頭の中で想像出来るように組み立てていきましょう。例えば項目ごとに「一つ目は……についてです」などと小さな見出しをつけると、より分かりやすくなります。

最後の「まとめ」では、全体で言ったことを繰り返して結論を伝えます。最初に話した内容を最後にもう一度まとめることによって、聞き手にはより理解しやすくなります。

さて、ここまでである程度文章がまとまったら、音読してみましょう。出来れば録音して聞いてみると、聞きやすいところ、聞きにくいところ、話の流れが悪いところがよく分かります。また、自分の癖なども発見出来ると思います。何度も読むうちに覚えることが出来たなら、会場にいるつもりで、原稿を見ないで録音してみてください。

自分の声を録音するというのは意外と緊張するものですが、こうして練習を重ねることで本番はバッチリです！

ご意見・ご感想は→miyabi@iris.eonet.ne.jp

MY BEST SHOT

最優秀作

❶安藤正一　愛知県豊田･70歳［ラクダに乗って］

講 評　■選：河相正名
日本写真家協会会員

今月の格言：写真は失敗の連続である

❶撮影地は中国･敦煌市郊外にある鳴沙山。風が吹くと、文字通り砂礫が音を立てるという。最近、観光客が増えているというが、その賑わいぶりがうかがえる画面手前と、奥に広がる大自然との対比が面白い。小さな点でしかない砂山の観光客が、鳴沙山のスケールを出している。

❷手前に大きく取り入れたタオルが、アメリカ、というよりカリフォルニアの青い空と明るい太陽を感じさせる。色彩といい、画面構成といい、インパクトのある写真となった。

❸緑に挟まれそっと咲く白蓮に、清楚な魅力を感じる。作者の静かな心が伝わってくる。

❹的確なシャッタースピードで、子どもたちと水の動きを見事に表現出来た。猛暑を吹き飛ばしてくれそうな力を持った作品。

❺見方一つで、何でもない風景に意味が与えられる。コミカルな印象もある楽しいショット。

優秀作

❷団英男　兵庫県神戸レインボー
47歳［カリフォルニア・ブルー］

❸菊野善之助　愛媛県松山・83歳［白い花］

❺露木義光
静岡県沼津
55歳［用心棒］

❹梅田尊　愛知県豊田・65歳［夏の日の思い出］

入選

横内孟
山梨県南
アルプス
60歳
［ヤマオ
ダマキ］

木村文丸　青森県弘前・69歳［精悍］

岩佐清　岐阜県高山・79歳［蓮］

上野春夫 広島県三原・74歳［田舎の祭り］

河野政雄　北海道帯広平原・59歳
［コンバインアート］

鳥羽孝哉　長野県松本アルプス・74歳
［朝焼けの公園］

山口俊行　大阪府茨木・59歳
［頑張る　ちびっ子］

山田武夫　愛知県名古屋樟・86歳
［篝火残照］

LIONS GALLERY

「田園風景」油彩8号

福島県の北端に位置する桑折町は、緑豊かな田園・果樹地帯で、特に特産の桃は、平成六年から連続して皇室宮家へ献上されております。西に半田山、東に霊山がそびえており、素晴らしい風景が広がっております。

私の絵は六十歳から自己流で始めた油絵です。年に一回開かれる文化祭に出展するのが楽しみです。当クラブでも愛好者を募り、「絵画クラブ」を作りたいと願っております。

今年の地区ガバナー・スローガン「原点に立ち返り奉仕の心で翔こう」（投稿当時）の下、地区のためにがんばっております。

（みやもと　いちろう・66歳）

宮本一郎
福島県・桑折ライオンズクラブ
小売業

みなさんの温かい心が生んだクッキーです。

神戸母子寮は1995年1月17日の阪神大震災により全壊し、母子、職員5人の命が奪われました。

再建のめどが立たず途方に暮れている時、全国のライオンズクラブの皆さまが、支援の手を差し伸べてくださり、

97年4月「ライオンズファミリーホーム」として生まれ変わることが出来ました。

また、母親たちが安心して働ける場として、ライオンズ福祉作業所「クッキー工房マミー」も、96年9月に完成し、

現在、障害者の方たちも交え、皆さまの温かいお気持ちにこたえるべく、おいしいクッキーづくりに励んでいます。

ライオンズクラブの各種行事の記念品、献血アクティビティの粗品等に、ぜひ私たちのクッキーをご利用ください。

読者プレゼント

EDITOR'S ROOM

■桜染の絹のスカーフを五人の読者に

「ふるさと探訪」（44ページ）に登場した福岡県・甘木ライオンズクラブから、㈱工房夢細工（ライオン小室容久）の桜染の絹格子楊柳スカーフが五人の読者にプレゼントされます。一般に化学染料や桜と他の草木を混ぜてピンク色を作り、桜染と呼ぶことが多い中、夢工房の桜染は、桜以外の材料を一切使いません。

何年もの試行錯誤の末、日本で初めて桜のみから美しい「桜色」を取り出すことに成功しました。日本人に愛され続けている桜の、おくゆかしさと優しさを秘めた桜色です。花が咲く前の桜の小枝を原料に、枝から色を煮出すのに三十〜四十日、熟成に二週間〜三カ月かけた染液を使い、好みの色になるまで何度も染めの作業を繰り返します。研究の成果と伝統の巧みの技を用い、一枚一枚手間と愛情を注いで染め上げた、シルクのスカーフです。

■風祭竜二氏のポストカードを十人の読者に

「祭りのある風景」の切画で好評を頂いている切画家・風祭竜二氏から、サイン入りポストカードが十人の読者にプレゼントされます。東京臨海副都心のエリア情報誌『東京シーサイドストーリー』の表紙を飾った風祭氏の切画十二作品がポストカードになりました。レインボーブリッジと自由の女神、フジテレビ社屋、東京ビッグサイト、無人運転鉄道ゆりかもめなど、近未来的な新開発地区の景観が、風祭氏の切画により新たな魅力を醸し出しています。

■「FIFA百周年公式写真展」チケットを十人の読者に

九月十八日から十月十七日まで、東京・六本木ヒルズの森アーツセンターギャラリーで開催される「FIFA百周年公式写真展――ペレが選んだ百十九名のトッププレーヤー」のチケット（二枚一組）が、先着十人の読者にプレゼントされます。歴代のトッププレーヤーのポートレートを、アートやファッションの分野で活躍する一流の写真家たちが斬新な手法で撮り下ろした作品を紹介。初日から二日間のみ、栄光の「FIFAワールドカップトロフィー」も特別展示されます。

Photograph by Marc Quinn

プレゼント応募要項

はがきに住所、氏名、電話番号、クラブ名と「スカーフ」「FIFA写真展チケット」「ポストカード」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。チケットは先着順、それ以外は10月末日締切です。応募多数の場合は抽選とし、当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ウェブサイトからの応募
URL: www.lionsclubs.org/JA/content/thelion_present_form.html

次号予告

THEME

Ⅰ LCIFセミナー

テーサップ・リー理事長を迎え、八月に全国四カ所で開催されたLCIFセミナーの模様を紹介する。

Ⅱ 愛知万博

半年後に迫った愛知万博におけるライオンズの支援事業について、白井亮実行委員長（名古屋ウエスト・ライオンズクラブ）に聞く。

ROAR・ローア ――まるごと337複合地区

十一月号は330複合地区特集。「ヘッドライン」は日本初の女性ガバナーとなった櫻井彗子330・C地区ガバナー（大宮グリーン・ライオンズクラブ）を取材。また、新企画「メーク・アップ」では、東京ウイル・ライオンズクラブと神奈川県・横浜鶴見東ライオンズクラブの例会を訪問する。「ふるさと探訪」は山梨県の西北、長野県との県境にほど近い長坂町を訪ねる。戦国時代の大名・武田信玄が北信濃攻略のために切り開いた軍用路は、八ケ岳南麓をまっすぐに貫くことから「棒道」と呼ばれ、路の端には一丁ごとに道しるべとして素朴な石の観音様が並ぶ。八ケ岳から湧き出る名水の里としても知られる長坂は、国蝶のオオムラサキの国内有数の自生地でもある。「祭りのある風景」は埼玉県秩父の秩父夜祭。秩父神社の冬季例大祭で、日本三大曳山祭りの一つ。

Official publication of Lions Clubs International.

LIONS INTERNATIONAL
We Serve

Published by authority of the Board of Directors in 22 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Flemish-French, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, **CLEMENT F. KUSIAK,** 6302 Homewood Road, Linthicum, Maryland, 21090-2108 USA; Immediate Past President, **DR. TAE-SUP LEE,** A-306, Tower Palace, 467 Dogok 2-dong, Gangnam-gu, Seoul 135-270, Republic of Korea; First Vice President, **ASHOK MEHTA,** 13/5, Avanti Apts., Sion East, Mumbai 400-022, India; Second Vice President, **JIMMY M. ROSS,** P.O. Box 368, Quitaque, Texas, 79255 USA.

DIRECTORS
LUIS ALFREDO ALMANSA, Bogota, Colombia; **WILLIAM ANDERSON,** Hanover, Pennsylvania, USA; **SEBASTIÃO BRAGA,** Belo Horizonte, Brazil; **LOWELL BONDS,** Hoover, Alabama, USA; **GARY L. BROWN,** Urbana, Ohio, USA; **RICHARD P. CHAFFIN,** Forest, Virginia, USA; **VARA PRASAD CHIGURAPATI,** Vijayawada, India; **JULES COTÉ,** Shelburne, Vermont, USA; **WILLIAM J. CRAWFORD,** Encinitas, California, USA; **HANS ULRICH DÄTWYLER,** Schattdorf, Switzerland; **NELSON DIÉZ PERÉZ,** Asuncion, Paraguay; **ASOKA de Z. GUNASEKERA,** Colombo, Sri Lanka; **RANDY HEITMANN,** Cambridge, Nebraska, USA; **CLIFFORD S.A. HEYWOOD,** Takapuna, North Shore City, New Zealand; **PROF. JAN A. HOLTET,** Rasta, Norway; **DR. MIKIO ISHIBASHI,** Hokkaido, Japan; **ERKKI J.J. LAINE,** Espoo, Finland; **E. ROBERT "BOB" LASTINGER,** Wesley Chapel, Florida, USA; **HOWARD LEE,** Farnham, Surrey, England; **SOMSAKDI LOVISUTH,** Bangkok, Thailand; **SERGIO MAGGI,** Bari, Italy; **DR. GEN OKUBO,** Nagasaki, Japan; **W. R. O' RILEY, Maryville,** Missouri, USA; **DON REESE,** Eunice, New Mexico, USA; **DUR ROBERSON,** Oak Harbor, Washington, USA; **MAYNARD WARREN RUCKS,** Henderson, Minnesota, USA; **JAMES SHERRY,** Sackville, Nova Scotia, Canada; **A.P. SINGH,** Kolkata, India; **DR. WING-KUN TAM,** Hong Kong, China; **GARY TSCHACHE,** Bozeman, Montana, USA; **WALTER R. "BUD" WAHL,** Streator, Illinois, USA; **KEE-JUNG WOO,** Daegu, Republic of Korea; **ERNEST YOUNG JR.,** Lansing, Kansas, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　大久保彦 ·石橋幹雄
委 員 長　林孝(334)
編 集 長　高橋義太郎(332)
委　　員　今井三和(330)·荒川隆志（331）
木村敬之介(333)·中田勝昭（335）
尾﨑明雄（336)·佐々木智英（337）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp

編集室

神輿担ぎの理論

ライオン誌
日本語版委員長
☒
林　孝

経営管理論に、「神輿担ぎの理論」というのがあります。仮に、十人で担ぐお神輿があるとしますと、その中の六人は本当に一生懸命力を入れて担いでいる。二人は、「わっしょい、わっしょい」と掛け声は勇ましいが、力を入れた振りをしているだけで、実際には本腰を入れて担いでいない。残る二人は、みんなが担いでいるお神輿の棒にぶら下がって、「らくちん、らくちん」を決め込んでいるというのです。

つまり、本当に力を入れて担いでいるプラス六の力も、掛け声だけで担ぐ振りをしている人は、プラスマイナス・ゼロとして、ぶら下がり組のマイナス二によって、四の力でしか担がれていないという例えです。会社やPTA、組合などの団体では、平均的にこんな割合で運営されているのではないかと首肯されます。しかし、「ウィ・サーブ」の理念の下に集まった我がライオンズクラブは、それではいけません。力を入れて担いでくれる人を見極め、その人たちを自分の協力者にしてその輪を広げ、少なくともぶら下がる人をゼロにする、それが会長さんなり幹事さんの腕の見せどころではないでしょうか。

お神輿は全員が力を入れて担ぐもの、この当たり前のことが、なかなか出来ないのが現実です。自分一人ぐらい力を抜いてもいいだろうと思う人がいても不思議はありません。しかし、そんな人が大勢いると、お神輿はひっくり返ってしまいます。ライオンズクラブでも、全員参加の意識の向上を図らないと、一部のメンバーだけでクラブを動かしていくという弊害が生じます。それでは「ウィ・サーブ」の理念に反するのだということを、心すべきだと思います。

今年度、ライオン誌日本語版委員会の委員長という大任を担うことになりました。もとより、一人で出来るとは思っていません。お二人の国際理事のご指導を仰ぎながら、他の七人の委員の方々や職員さんと力を合わせて、懸命に務めさせて頂きます。メンバーの皆さんも、活発に投稿して頂きたいのはもちろんのこと、『ライオン誌』によく目を通して頂いて、積極的にご感想なり、ご意見なりをお寄せくださいますようお願いします。それが『ライオン誌』というお神輿を全員で担ぐことになると確信しております。

日本ライオンズクラブ 分布図

（二〇〇四年六月三十日 国際協会集計）

世界のライオンズ

	■クラブ数 前期末	現在	■会員数 前期末	現在	現在増減
ライオンズ国または領域 前期末191 現在193	45,766	46,232	1,357,487	1,365,779	8,292

日本のライオンズ

	■クラブ数 前期末	現在	■会員数 前期末	現在	現在増減
331-A北海道（道央地区）78	75	78	3,029	3,008	△ 21
331-B北海道（道北·道東地区）101	100	101	3,536	3,422	△ 114
331-C北海道（道南地区）62	62	62	2,426	2,346	△ 80
小計	237	241	8,991	8,776	△ 215
332-A青森68	67	68	2,428	2,344	△ 84
332-B岩手57	56	57	2,046	2,008	△ 38
332-C宮城85	81	85	2,014	1,964	△ 50
332-D福島83	82	83	2,509	2,459	△ 50
332-E山形55	57	55	2,251	2,121	△ 130
332-F秋田57	57	57	1,809	1,758	△ 51
小計	400	405	13,057	12,654	△ 403
333-A新潟84/群馬58	140	142	5,618	5,439	△ 179
333-B茨城80/栃木60	140	140	4,695	4,557	△ 138
333-C千葉126	126	126	3,647	3,597	△ 50
小計	406	408	13,960	13,593	△ 367
330-A東京200	197	200	5,823	5,637	△ 186
330-B神奈川157/山梨35/東京1	199	193	6,289	6,110	△ 179
330-C埼玉112	111	112	3,261	3,139	△ 122
小計	507	505	15,373	14,886	△ 487
334-A愛知119	114	119	6,413	6,246	△ 167
334-B岐阜56/三重36	92	92	4,534	4,392	△ 142
334-C静岡84	84	84	3,866	3,688	△ 178
334-D富山39/石川33/福井27	98	99	4,679	4,572	△ 107
334-E長野55	55	55	2,625	2,551	△ 74
小計	443	449	22,117	21,449	△ 668
335-A兵庫（東） 116	116	116	3,714	3,386	△ 328
335-B大阪171/和歌山26	190	197	7,790	7,617	△ 173
335-C滋賀24/京都82/奈良18	122	124	4,985	4,930	△ 55
335-D兵庫（西）69	67	69	2,752	2,626	△ 126
小計	495	506	19,241	18,559	△ 682
336-A徳島36/高知32/香川32/愛媛53	151	153	6,931	6,795	△ 136
336-B鳥取22/岡山80	104	102	4,443	4,236	△ 207
336-C広島107	107	107	4,427	4,283	△ 144
336-D島根48/山口62	109	110	4,313	4,204	△ 109
小計	471	472	20,114	19,518	△ 596
337-A福岡115/長崎3	119	118	5,466	5,273	△ 193
337-B大分47/宮崎47	94	94	3,441	3,305	△ 136
337-C佐賀30/長崎54	82	84	3,295	3,342	47
337-D熊本58/鹿児島57/沖縄25	142	140	4,815	4,634	△ 181
小計	437	436	17,017	16,554	△ 463
合計	3,396	3,422	129,870	125,989	△ 3,881
世界のライオンズの		7.4%		9.2%	